

**誰にでもやさしい観光地づくり形成事業**

**観光バリアフリー推進モデル事業**

**報告書**

**障がい者スポーツ誘致プログラム**

**2014年3月**

**NPO 法人 バリアフリーネットワーク会議**

## 目次

<b>1.障がい者スポーツの現状</b> .....	<b>2</b>
1.1 障がい者スポーツ基本情報 .....	2
1.2 障がい者スポーツの合宿実施状況 .....	9
1.3 日本障害者スポーツ協会ヒアリング .....	13
<b>2.県外における障がい者スポーツの受け入れの現状</b> .....	<b>16</b>
2.1 県外他地域における障がい者スポーツ、スポーツコンベンション .....	16
2.2【視察】味の素スタジアム .....	18
2.3【視察】東京都障害者総合スポーツセンター .....	30
2.4 第13回全国障害者スポーツ大会(スポーツ祭東京 2013) .....	40
<b>3.県内運動施設のバリアフリー整備状況</b> .....	<b>42</b>
3.1 沖縄県内のスポーツ施設数 .....	42
3.2 主要施設利用情報 .....	43
<b>4.障がい者スポーツモニター合宿</b> .....	<b>75</b>
4.1 モニター募集概要 .....	75
4.2 モニター1:チームブルータグ(車いす陸上) .....	77
4.3 モニター2:福岡県身体障害者アーチェリー協会(車いすアーチェリー) .....	85
4.4 その他来沖選手等へのヒアリング .....	90
<b>5.スポーツ施設紹介ツール</b> .....	<b>100</b>
<b>6.まとめ</b> .....	<b>101</b>
6.1 本事業の成果 .....	101
6.2 今後の課題、取り組み .....	102

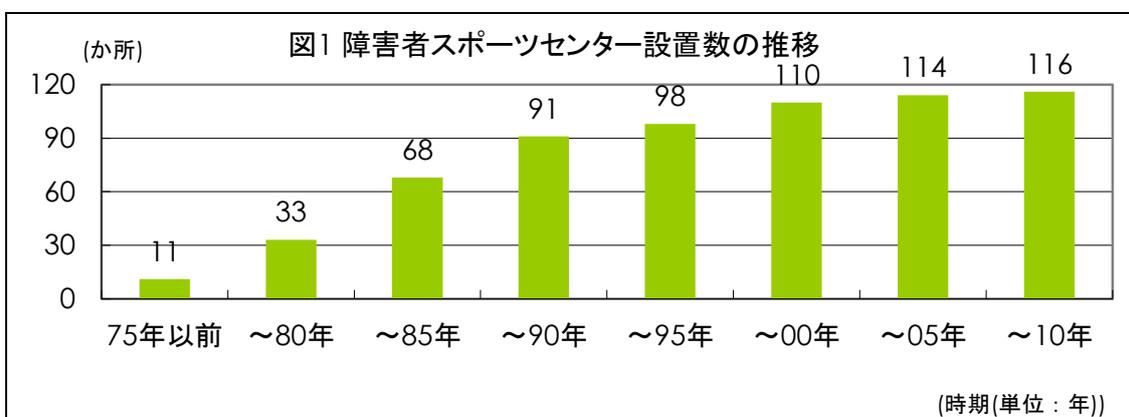
# 1.障がい者スポーツの現状

## 1.1 障がい者スポーツ基本情報

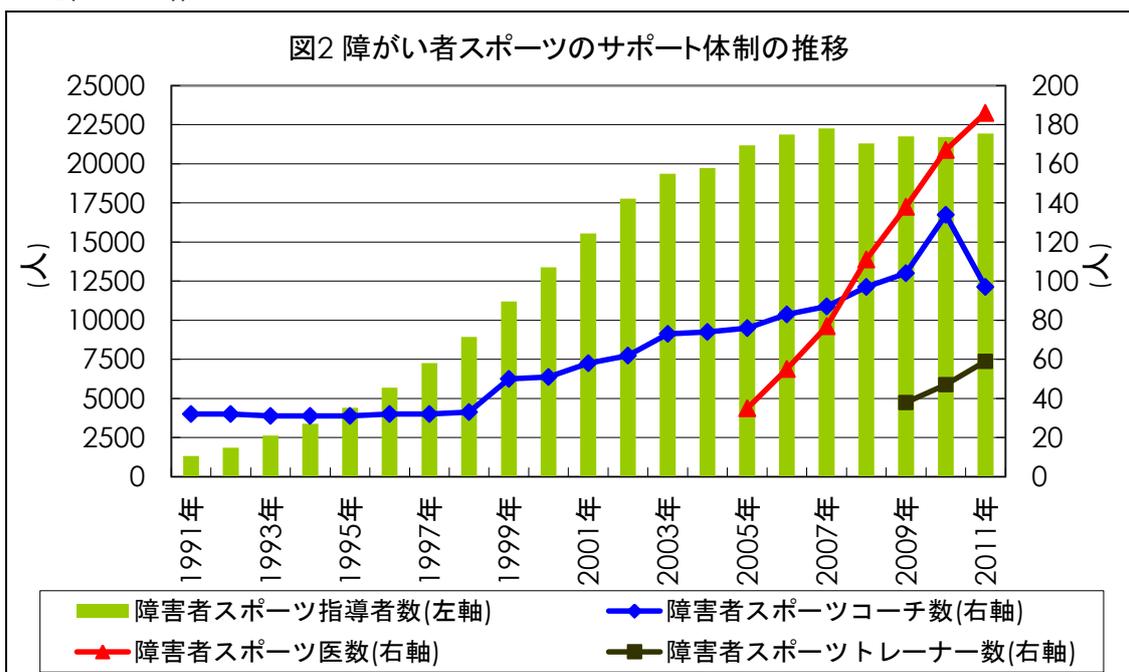
### (1) 現状

近年、社会のバリアフリー化の進展やバリアフリー法の整備に伴い、障がい者が容易に外出できる環境が整ってきた。スポーツを楽しむ障がい者も増加している。

障がい者がスポーツを楽しむための施設「障害者スポーツセンター」の設置数は近年増加傾向にあり(図 1、公益財団法人笹川スポーツ財団「障害者スポーツ施設に関する研究」(2010 年))、センターを利用する障がい者の数も、2009 年度で延べ約 262 万人と高水準に達している。



障がい者スポーツをサポートする「障害者スポーツ指導者」も増加しており、障がい者スポーツの隆盛をうかがわせる。(図2、公益財団法人日本障害者スポーツ協会「障がい者スポーツの歴史と現状」(2012 年))



折しも 2011 年 6 月、「スポーツ基本法」が国会で成立した。

本法律では、障がいを持つ人を含めた、全ての国民がスポーツをする権利、「スポーツ権」が明文化された(表 1)。

また、スポーツ基本法に基づいて 2012 年に策定された「スポーツ基本計画」の中でも、「年齢、性別、障がいの有無等を問わず、広く人々が関心・適性等に応じてスポーツに参画できる環境を整備すること」が基本的な政策課題とされている。

そのような背景のもと、公益社団法人日本障害者スポーツ協会は、2013 年 3 月、「日本の障がい者スポーツの将来像(ビジョン)」を策定するなど、今後、障がい者スポーツの愛好者がより増加していく環境が整えられていると言える。

表 1 スポーツ基本法における主な障がい者言及箇所

第 2 条 5 項	スポーツは、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない。
第 12 条 2 項 (スポーツ施設 の整備等)	(前略)スポーツ施設を整備するに当たっては、当該スポーツ施設の利用の実態等に応じて、安全の確保を図るとともに、障害者等の利便性の向上を図るよう努めるものとする。

## (2) 主な障がい者スポーツ

障がい者スポーツは、既存のスポーツ種目を、障がいがあっても競技できるように規則や用具等に修正を加えたものが多く、中には、障がい者スポーツ独自の競技もある。

以下に、現在夏季パラリンピックの公式種目として競技されている 20 種目の概要を示す。(参考:(1)~(16)は NHK 福祉ポータル Web サイト「ハートネットTV」を、以降は(17):日本車いすフェンシング協会、(18):日本視覚障害者サッカー協会、(19):日本脳性麻痺 7 人制サッカー協会、(20):日本障害者乗馬協会・RDA 横浜一の各 Web サイトを参照)

### (ア) 車いすテニス

ツーバウンドによる返球が認められている以外は、一般のテニスと同じルール(コートの広さやネットの高さも同じ)で行われている。テニス技術以外に、車いすの操作能力も求められるため、多くの選手は回転性能や敏捷性が得られるような車いすテニス専用の車いすを使用する。



## (イ) 卓球

一般の卓球競技規則の一部規則が変更されている。例えば、正規のトスが困難な選手の場合には、いったん自コートにボールを落とした後、相手コートにサービスをすることが認められている。競技は個人戦と団体戦があり、選手は障がいの種類や程度、運動機能によってクラス分けされ、クラスごとに競技する。



## (ウ) 射撃

ライフルあるいはピストルで規定の弾数を射撃して得点を競う。標的までの距離は種目によって、50m、25m、10m と異なる。1発の満点は10点。射距離10mのエアライフル種目で10点満点を撃つには、直径4.5mmの弾を標的の直径0.5mmのマークに命中させなければならない。



## (エ) セーリング

競技として行われているセーリングは、主催者が設定したスタートラインからフィニッシュラインまでの間を、いかに速く走るかを競い合う。コースの中には、台形や三角形にレイアウトされたブイが設置されており、定められた走行コースを通過しなければならない。



## (オ) パワーリフティング

下肢障がい選手を対象にベンチプレスが行われている。ラックからバーベルをはずした状態で静止し、審判の合図とともに胸まで降ろし、再びバーベルを押し上げることで1回の試技となる。障がいの種類や程度によるグループ分けはなく、男女別・体重別(10階級)に競技が行われる。



### (カ) 柔道

視覚障がい者の柔道は、障がいの程度ではなく、男女別・体重別(男 7 階級、女 6 階級)に行われる。段位は、健常者同様、講道館で取得する。規則は、国際柔道連盟試合審判規定に準じるものの、両者がお互いに組んでから主審が「はじめ」の宣告をする等、一部変更されている。



### (キ) ボート

4 人のクルー(漕手)と指示を出す 1 名のコックス(舵手)による「舵手付フォア」、2 人のクルーによる「固定席ダブルスカル」、1 人のクルーによる「固定席スカル」があり、競技は、ブイで仕切られた 6 つの直線レーン(1000m)で行われ、ボートの先端がゴールラインに到達した順序で勝敗を決める。



### (ク) 自転車

トラック種目とロード種目がある。使用する自転車は、切断選手などが用いる一般の競技用自転車、体幹バランスの悪い選手が用いる 3 輪自転車、視覚障がい選手がパイロットと乗車するタンデム(2 人乗り)自転車、下肢障がいがあるために上肢だけで駆動するハンドサイクルなどの種類がある。



### (ケ) ボッチャ

「ジャック」と呼ばれる白い目標球に、赤ボール 6 個と青ボール 6 個をそれぞれ投球し合い、ジャックにどれだけボールを近づけられるかを競う。個人、ペア、チーム(3 人)の各区分で行われる。手で投球できないクラスの選手は、「競技アシスタント」のサポートにより、「ランプ」という滑り台のような投球補助用具で競技を行う。



### (コ) アーチェリー

一般のアーチェリー競技規則を、障がいの種類や程度に応じて一部変更したり、用具を工夫して行われる。種目は、男女別リカーブ、コンパウンドの個人戦及び団体戦がある。はじめにランキングラウンドを行い、その結果でトーナメントの対戦相手を決定し勝敗を競い合う。



### (サ) 水泳

一般の競技規則を一部変更して行われる。視覚障がい選手の場合、ゴールタッチやターンの際に怪我をする可能性があるため、コーチが合図棒で選手の身体に触れることができる。下肢に障がいがある選手の場合には、水中スタートが認められている。



### (シ) 陸上競技

車いすの競走競技では、「レーサー」と呼ばれる軽量な専用車いすを用いる。下肢切断の選手は、スポーツ用義足を装着して競技を行う。視覚障がい選手は、ガイドランナーと共に走ったり、コーラー(手たたきなどの音源を選手のために出す人)による方向指示を受けることが認められている。



### (ス) ウィルチェアラグビー

四肢に障がいのある車いす選手が行うラグビー。ボールはバレーボール球を参考に開発された専用球を使用する。パスは通常のラグビーとは異なり、前方へのパスが認められている。また、車いすでのコンタクトにより相手の攻撃や防御を阻止することが認められている。



### (セ) ゴールボール

視覚障がい選手が行う対戦型スポーツで、1 チーム 3 名の選手が鈴の入ったボールを投球して攻撃したり、鈴の音を頼りに身体全体を使ってセービングをするなどの攻防を行い得点を競い合う。視力の程度に関わらずアイシェードを装着してプレーしなくてはならない。



### (ソ) シットイングバレーボール

床にお尻をつけたまま行う 6 人制バレーボール。ボールは公認バレーボール球を使用するが、コートは一般のバレーボールコートよりも狭く、また、座ったまま行えるようにネットの高さも低く設定されている。



### (タ) 車いすバスケットボール

ルールは一般の規則に準じていますが、車いすの特性を考慮し、ボールを保持した状態で 2 プッシュまで車いすをこぐことが認められている。ダブルドリブルは適用されない。車いすの操作性が求められるため、使用する車いすは回転性能や敏捷性が得られるような専用の車いすが用いられる。



### (チ) 車いすフェンシング

車いすフェンシングは「ピスト」という装置に競技者の腕の長さに応じて車いすを固定し、上半身のみで競技を行う。1960 年の第一回ローマパラリンピックからの正式競技種目であり、ヨーロッパで特に盛んな障がい者スポーツの一つ。



### (ツ) 視覚障害者 5 人制サッカー

ブラインドサッカーはイマジネーションとオリエンテーションを駆使した 5 人制サッカー。視覚障がい者と健常者が同じフィールドでプレーすることのできるユニバーサルスポーツでもある。B1クラス、B2/3 クラスの二つのカテゴリーがあり、B1 クラスではアイマスクを装着し、普通なら情報の 8 割を得ているという視覚を奪いながらも、驚くほどのプレーをする選手たちがいる。B2/3 クラスは、弱視者と晴眼者がともにプレーできるフットサル。



### (テ) 脳性麻痺 7 人制サッカー

CP サッカーは、パラリンピックの正式種目にもなっている、障がい者の団体競技のひとつであり、7人で行うサッカー。国際的には「Football 7-a-side」と呼ばれ盛んに行われている。日本では、脳性まひ者 7 人制サッカーとも呼ばれる。



### (ト) 馬術

乗馬は、老若男女、ハンディのあるなしに関わらず、誰にでも楽しめるスポーツでありレクリエーションと言える。ボランティアの多大な熱意と献身的な活動を基盤にしているため、全面的には療法効果をうたわれないことにしているものの、実際には多くの理学療法士、作業療法士、医師、特殊教育者などの支援を受け、身体的、心理教育的、社会的多面からの大きな治療的な効果を上げている。



## 1.2 障がい者スポーツの合宿実施状況

競技者が年々増加し、活発化する障がい者スポーツにおいて、練習時間の確保やスキルの向上等を目的とした合宿も盛んに行われている。

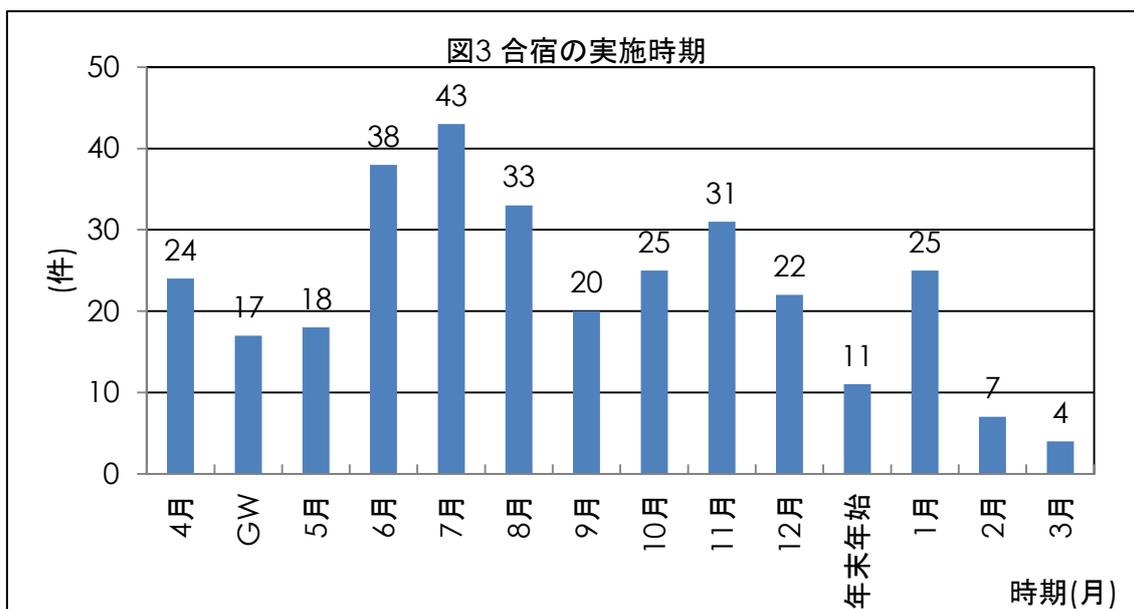
公益財団法人日本障害者スポーツ協会の「平成 24 年度事業実施概要」を元に、合宿の動向について取りまとめた。

- ・ 「Ⅱ 競技力向上対策の推進」項の「1.競技団体に対する助成」「(3)助成金を用いて実施した対象事業」に記載されたものから集計した。
- ・ 助成事業のうち、「合宿」「キャンプ」の文言が含まれる事業を集計した。  
→以上の結果、40 競技団体の実施した 318 件の合宿・キャンプを取りまとめた。

→318 件で延べ **5,309 名**が **10,250 泊**、現地で滞在している。概要を以下に示す。

### (1) 実施時期

合宿の実施時期の分布を図 3 に示す。複数の月にまたがる合宿は、初日が属する月とした。ゴールデンウィーク(4月 28 日～5月 6 日)、年末年始(12月 29 日～1月 6 日)を含む日程のみ、別途算出している。



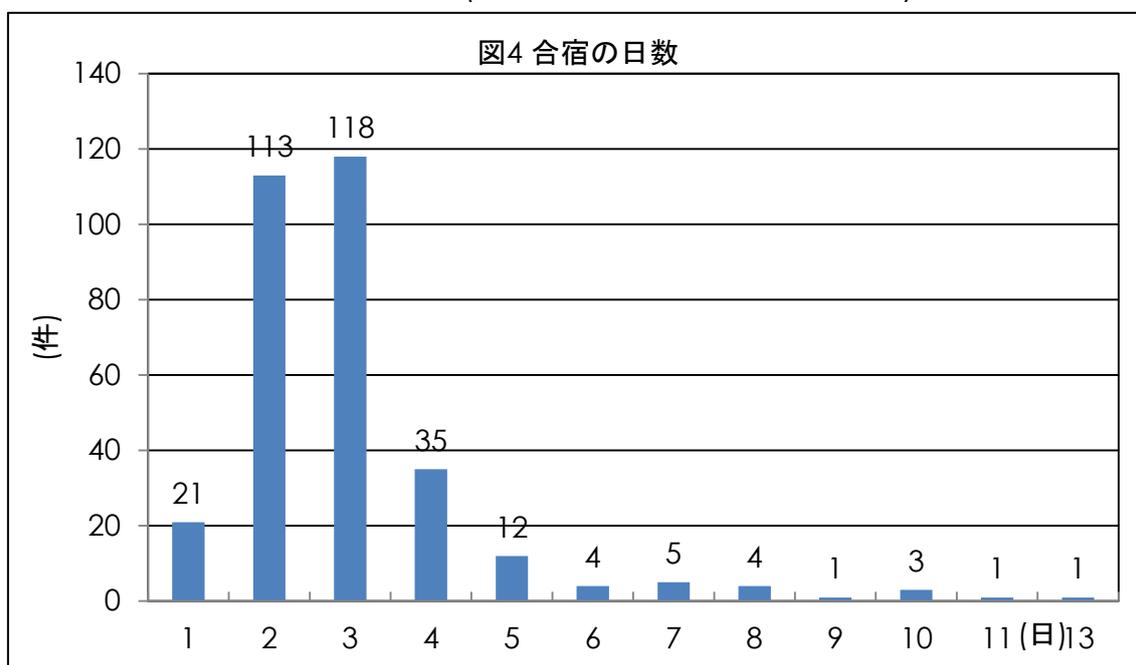
年度の初めごろほど多く、年度末になるに従って減少しているが、これはスポーツに最適な時期が春～秋ごろであることによると思われる。12～3 月頃の合宿には、スキーやアイススレッジホッケーの合宿が占める割合が高くなっている。

一方、旅費が高くなると思われるゴールデンウィークや年末年始は、前後の時期に比べると少なくなっている。

また、一般的には観光シーズンではない 6 月や 11 月が比較的多くなっている。

## (2) 日数

合宿の日数の分布を図4に示す。(2泊3日の場合、3日と数えている)

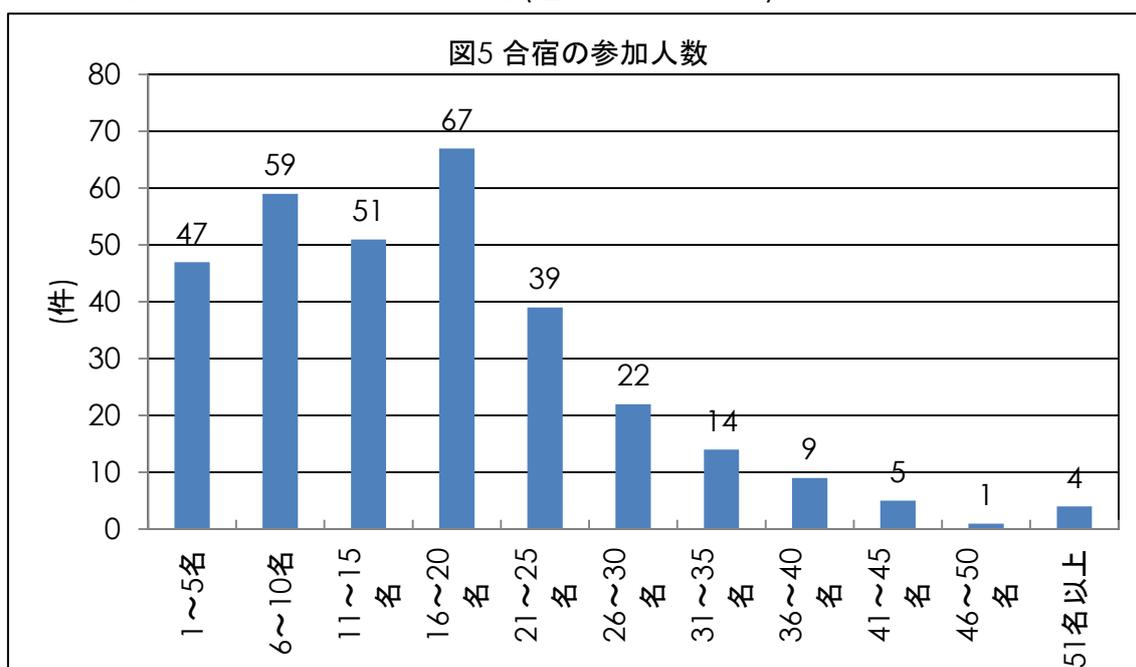


合宿の実施期間は、2泊3日、3泊4日が突出しており、2種類で全体の3/4を占める。

日帰りの合宿は、約7割(14件)が、東京都、大阪府、愛知県及びその周辺地域で実施されていた。10日以上長期にわたる合宿は、5件中4件がスキー競技だった。

## (3) 参加人数

合宿の参加人数の分布を図5に示す。(選手、スタッフ合計)



合宿の参加人数は、おおよそ 1/3 が 10 名以下、1/3 が 11～20 名、残りが 21 名以上となった。1 回あたりの平均参加人数は 17 名となった。種目ごとの競技人口に開きがあり、参加人数に幅がある。

#### (4) 実施場所

合宿の実施場所の分布を図 6、表 2 に示す。2 つの都道府県にまたがって実施された合宿は、それぞれ「1」とカウントした。

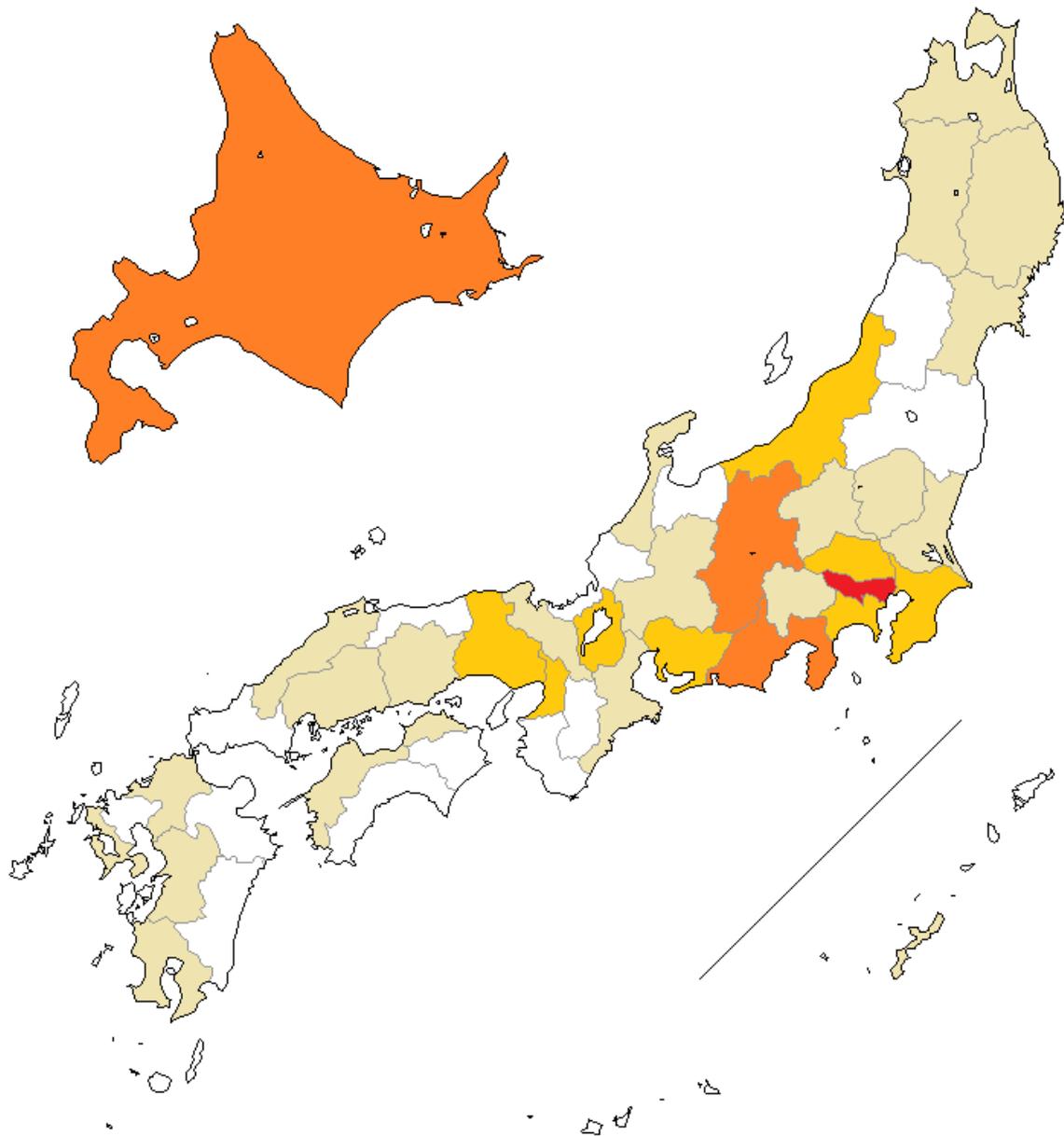


図 6 都道府県別合宿件数(Craft MAP サイトを利用して作成)

(■…61 件、■…25～28 件、■…10～19 件、■(ベージュ)…9 件以下)

表 2 合宿実施地域

地域	件	地域	件	地域	件	地域	件
東京都	61	新潟県	10	青森県	2	栃木県	1
北海道	28	茨城県	7	島根県	2	グアム	2
長野県	24	宮城県	7	愛媛県	1	中国	1
静岡県	25	京都府	6	岡山県	1	イギリス	1
大阪府	19	山梨県	5	岩手県	1	オーストリア	1
埼玉県	17	福岡県	5	岐阜県	1	タイ	1
兵庫県	17	<b>沖縄県</b>	<b>4</b>	香川県	1	ロシア	1
愛知県	14	広島県	4	三重県	1	韓国	1
千葉県	16	熊本県	3	秋田県	1	不明	3
神奈川県	12	群馬県	4	石川県	1		
滋賀県	10	鹿児島県	2	長崎県	1		

合宿地として最も利用されている地域は、東京都だった。隣接する千葉県、埼玉県、神奈川県を含めると 106 件と、全体の 1/3 に達する。人口が多いことや、交通機関が発達しており、他地域の人が容易に集まりやすいことによるものと思われる。

北海道、新潟県、長野県といった地域は、冬季スポーツの合宿が、静岡県は、パラサイクリングの団体が、それぞれ半数以上を占めていた。合宿が全く行われていない地域は、交通の便が整備されていない県に多いように思われる。

沖縄県は、延べ 4 件の合宿が行われていた。

### (5) 沖縄での実施状況

表 2 で、沖縄で合宿していると回答された 4 件について、概要を表 3 に示す。

表 3 沖縄での合宿実施状況

競技団体名	事業名	時期 日数	参加人数		
			選手	その他	計
日本ろう者水泳協会	第 7 回強化合宿	10 月・2 泊	9 名	4 名	13 名
日本ろう者水泳協会	第 9 回強化合宿	11 月・1 泊	6 名	4 名	10 名
日本ろう者バドミントン協会	第 4 回強化合宿	11 月・2 泊	12 名	6 名	18 名
日本車椅子バスケットボール連盟	ガールズキャンプ沖縄	1 月・4 泊	12 名	4 名	16 名

県外の気温が低下する秋～冬にかけて訪れている。水泳が 2 件あることも、沖縄の温暖な気候を裏付けていると思われる。滞在期間も長短分かれており、沖縄県で多様な合宿が可能であることがうかがえる結果となった。

### 1.3 日本障害者スポーツ協会ヒアリング

本業務では、障がい者スポーツや合宿等の現状を把握するため、公益財団法人日本障害者スポーツ協会に対するヒアリングを行った(表 4)。

折しも、2020 年のパラリンピック東京開催決定後ということもあり、また、日本障害者スポーツ協会がパラリンピック委員会の事務局の役割を担っているということもあり、特に海外からの障がい者団体・選手の受け入れを念頭に置いてのヒアリングとなった。

表 4 ヒアリング概要

対象施設	公益財団法人日本障害者スポーツ協会
実施日時	2013年12月16日(月)11時～12時30分 於 同協会
先方対応者	強化部長 兼 日本パラリンピック委員会事務局長 中森 邦男様
当方	代表理事 親川、調査研究課 谷田貝

#### (1) 障がい者スポーツ合宿誘致に必要なこと:国内チーム

- ・ 施設のハードソフト両面でのバリアフリー整備。
- ・ 近年はバリアフリールームを備える宿泊施設も増えているが、**1施設に1室では足りない**。量的な充実が望まれる。
- ・ しかし、**一流選手の場合、多少のバリアは問題にならない場合も多く**、むしろ、**事前にバリア情報を把握できることが重要**。
- ・ 合宿を全面的にサポートできる、県などの組織がほしい。
- ・ 合宿先の候補に加えてもらうための、モニター合宿や下見制度の制定も有効。

バリアの実際の有無よりも、どこにどのようなバリアがあるか、どの施設はどのようなバリアフリー対応がなされているか、などの情報を得られることが重要、とのことだった。また、大人数の受け入れへの対応も課題と言える。

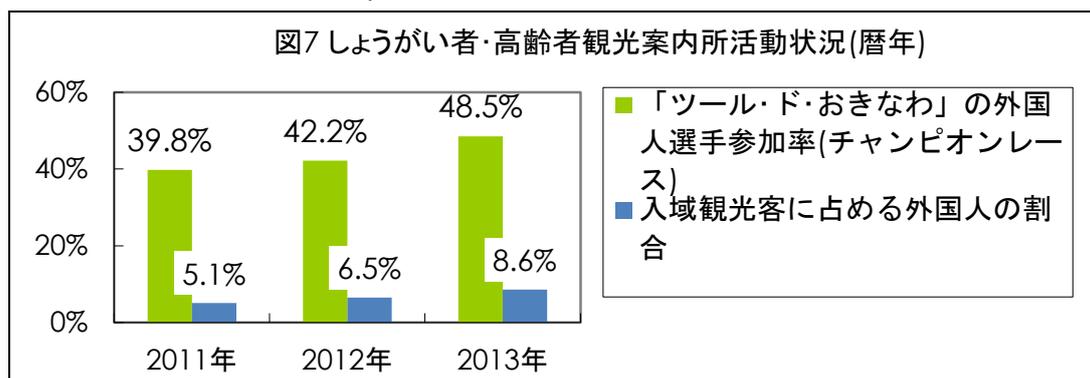
沖縄の場合、特に移動距離がネックになるが、「百聞は一見にしかず」で、モニター合宿などを実施することも効果がある。一度気に入ってもらえれば継続化の可能性も大きい。

#### (2) 障がい者スポーツ合宿誘致に必要なこと:海外チーム

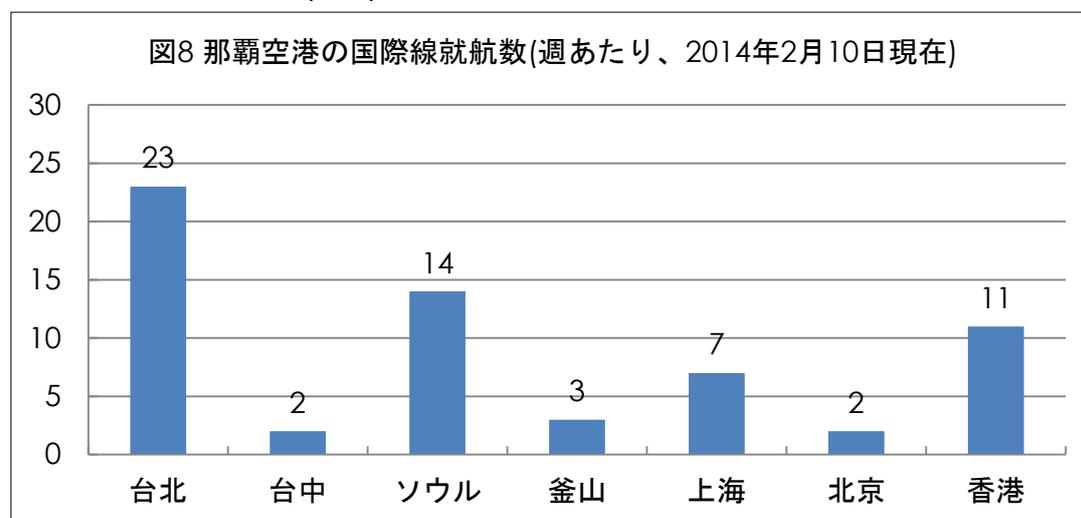
- ・ 飛行機の**就航路線数**(乗換都市も)を出発地別にまとめる。
- ・ 各国の文化、宗教にあった対応。特に**料理の提供**は必須(ハラールミールなど)
- ・ ストレスのない滞在環境整備。食堂の貸切利用など。
- ・ オフ時に、**バリアフリー観光情報の提供**や、モデル観光コースのメニュー化。
- ・ 語学面。**英語**がどこでも通じれば最低限対応可能。
- ・ 科学的なサポート、ケア体制といった高度な対応。

国内チームの誘致以上に、配慮すべき点が多い。

しかし、現在沖縄ではアジア諸国の観光受け入れを推進しており、観光面については受け入れの機会が増加している。スポーツ面でも、「NAHA マラソン」や「ツール・ド・おきなわ」などでは、海外の選手が参戦する例も多くなってきている(図 7)。それらの経験の延長線上として、海外の障がい者スポーツチームの受け入れも目指していきたい。(出典:「ツール・ド・おきなわ」および沖縄県公式 Web サイト)



リゾート地である沖縄は、飛行機の国際線就航路線数は地方都市にしては多く、その点は優位性があると考えられる(図 8)。



### (3) パラリンピックへの対応

- ・ 沖縄から会場までのアクセス情報も必要
- ・ 障がい者の搭乗をサポートするオフィシャルエアラインがあれば心強い。
- ・ パラリンピック時は、現地組織委員会が合宿候補地リストを作成、各国に配布する。そこに沖縄が含まれることが重要。すでに複数の県が動いている。
- ・ 実際の合宿地の決定は各国の専決事項。日本の組織委員会とは関係しない。

パラリンピック時の事前合宿地として、(特に海外チームを)受け入れるための留意点についても尋ねた。

受け入れる上での関門となるのが、組織委員会の作成するリストとのことだった。沖縄県も早急に誘致に向けた活動に本腰を入れていく必要がある。

障がい者の飛行機利用は、体に一定の負担がかかることから、十分なケアが求められる。沖縄は島嶼県であり、事実上移動手段は飛行機に限られているが、那覇空港を拠点に運航する日本トランスオーシャン航空(株)は沖縄県の出資する第三セクターでもあり、障がい者対応面での連携が望まれる。

また、バリアフリーの整備などを伴わない、アクセスの情報提供の重要性を指摘された。

#### (4) その他

- ・ 東京パラリンピック大会への参加者数は、現時点では全く想定外。
- ・ 2012年のロンドンパラリンピックの際は、組織委員会が助成制度を設けた。それを活用し、日本の水泳チーム、陸上チームが事前合宿を行った。
- ・ 2020年のパラリンピックに向け、日本人選手の強化のため、若い世代からの育成を行いたい。例えば、小中学生を対象としたスポーツ大会ができないか。種目としては、水泳、陸上、テニス、バスケなどを考えている。

パラリンピックについては、開催が決定した段階で、細部の検討は今後行われる感触だった。とはいえ、すでに動き始めている自治体もあることから、沖縄県としても早急に受け入れ態勢の検討、組織の立ち上げなどが必要である。

それらと並行し、日本選手強化のための大会を沖縄で受け入れるなどの取り組みを進め、他地域に先んじて「障害者スポーツのメッカ」との内外的な評価を確立することも重要である。

#### (5) まとめ

本調査は、非常に得るものの多いヒアリングとなった。

例えば障がい者への対応を考える時、一般的には設備面のバリアフリーをまず考慮しがちだが、スポーツ選手、特に一流選手の場合は、ある程度のバリアへは容易に対応してしまう。障がい者うんぬん以前に、スポーツを楽しむために必要な情報整備等、基本的な部分をなござりにしてはいけないことに気付かされた。

東京パラリンピックを見据えた国内外からの合宿誘致についても、何を目標に(=組織委員会が作成する合宿候補地リストに沖縄が載ること)、何をしなくてはならないか(飛行機、料理、オフ時観光等への対応)といった点について、情報を得ることができた。

これらをもとに、今後の障がい者スポーツ合宿等誘致のための戦略を検討していきたい。

## 2. 県外における障がい者スポーツの受け入れの現状

### 2.1 県外他地域における障がい者スポーツ、スポーツコンベンション

県外には、在宅の身体障がい者の利用を想定したスポーツセンターが設けられている。1974年に開設された「大阪市長居障がい者スポーツセンター」を皮切りに、現在、表5に示す25か所が運営されている。

表5 障がい者スポーツセンター協議会加盟施設

開館年	名称	開館年	名称
1974	大阪市長居障がい者 SC	1992	障害者 S 文化 C
1981	名古屋市障害者 SC	1994	ふれあいランド岩手 神戸市立市民福祉 SC
1983	広島市心身障害者福祉 C		
1984	東京都多摩障害者 SC	1996	広島県立障害者リハビリテ ーション CS 交流 C
	福岡市立障がい者 SC		高知県立障害者 SC
1985	西宮市総合福祉 C	1997	大阪市舞洲障がい者 SC
1986	東京都障害者総合 SC		新潟県障害者交流 C
	かがわ総合リハビリテーション 福祉 C		群馬県立ゆうあいピック記 念温水プール
	大阪府立障害者交流促進 C	1998	長野県障害者福祉 C
1988	京都市障害者 SC	2000	鹿児島県障害者自立交流 C
1990	埼玉県障害者交流 C	2012	堺市立健康福祉プラザ SC
	滋賀県立障害者福祉 C		北九州市障害者 SC アレアス
1991	群馬県立ふれあい S プラザ		

※S...スポーツ、C...センターの略

これらの施設は、主に当該地域在住の障がい者が利用する例が多いが、スポーツそのものを観光資源、地域おこし資源ととらえ、他地域からスポーツをしに来る個人や団体を誘致する動きも近年みられる。

インターネットのポータルサイト「Yahoo! Japan」で「スポーツコンベンション」と検索すると、最上位には沖縄県が表示されるものの、その他にも多くの地域が検索される(表6)。「温暖な気候」という地の利のある沖縄県も、他地域の動向によっては、相対的に魅力が低下してしまう可能性もある。

表 6 スポーツコンベンションの誘致地域の例

地域	推進団体	アピール文の例(抜粋)
岩手県 花巻市	はなまきスポーツコンベンションビューロー	充実した施設と安心のバックアップで成功させる、スポーツイベントならはなまきで！はなまきスポーツコンベンションビューローでは、岩手県花巻市でスポーツイベント(各種大会や会合)を開催してもらうための誘致活動、また開催時の支援をしております。
北海道 函館市	函館商工会議所青年部	多くの人が魅力的な街としての印象を持つ函館。地方都市としては十分な宿泊キャパシティを有しており、各地からのアクセスは北海道新幹線新函館開業により、更に利便性が高まります。
鹿児島県 さつま町	さつま町役場商工観光課	さつま町では「コンベンションタウンさつま推進協議会」を組織して、合宿誘致に力を入れています。2泊以上の宿泊を伴う合宿や大会等でさつま町内に宿泊される場合は、安価で統一した料金の設定、合宿場所のスポーツ・文化施設利用料(町管理分)は減免、スポーツドリンクの差し入れを行っています。
兵庫県 洲本市他	淡路島観光協会	豊かな自然と温暖な気候、おもてなしの心で皆さんをお迎えする淡路島は、2002年のサッカーW杯ではイングランドチームのキャンプ地となり、その後も世界少年野球大会やプロ野球ウエスタンリーグ公式戦、2006年には「のじぎく兵庫団体」などが開催されるなど、スポーツ大会、合宿等の開催に絶好の地です。

## 2.2【視察】味の素スタジアム

本事業では、東京都にある東京スタジアム(ネーミングライツにより「味の素スタジアム」と呼称)の現地調査を行った。

東京スタジアムでは、2013年に開催された「第13回全国障害者スポーツ大会」の開閉会式や一部の競技の会場となったほか、毎年ブラインドサッカーの大会が開催されるなど、障がい者スポーツの受け入れのノウハウを豊富に有していることから、視察対象として選んだ。

本節でセンターの概要を示す。



図9 味の素スタジアム

### (1) 施設概要

表7 施設基本情報

概要	
会社名称	株式会社東京スタジアム
所在地	東京都調布市西町 376-3
資本金	96億 5,250万円
出資者	東京都、京王電鉄(株)、公益財団法人東京市町村自治調査会、(株)三菱東京UFJ銀行、(株)みずほ銀行 他
沿革	
1993年11月	東京都知事が新競技場建設について発表
1994年8月	「武蔵野の森スタジアム(株)」設立
1997年6月	「武蔵野の森競技場」建設工事着工
2001年3月	施設開業
2002年11月	施設名称のネーミングライツについて、味の素(株)と基本合意。
2003年3月	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">  </div> <div> <p>新名称使用開始:メインスタジアム = 味の素スタジアム、セカンドフィールド = アミノバイタルフィールド</p> </div> </div>
2007年11月	ネーミングライツ契約更新
2010年7月	施設来場者数が1,000万人を突破
2012年4月	「味の素スタジアム 西競技場」オープン
2013年9月	「スポーツ祭東京 2013」開催

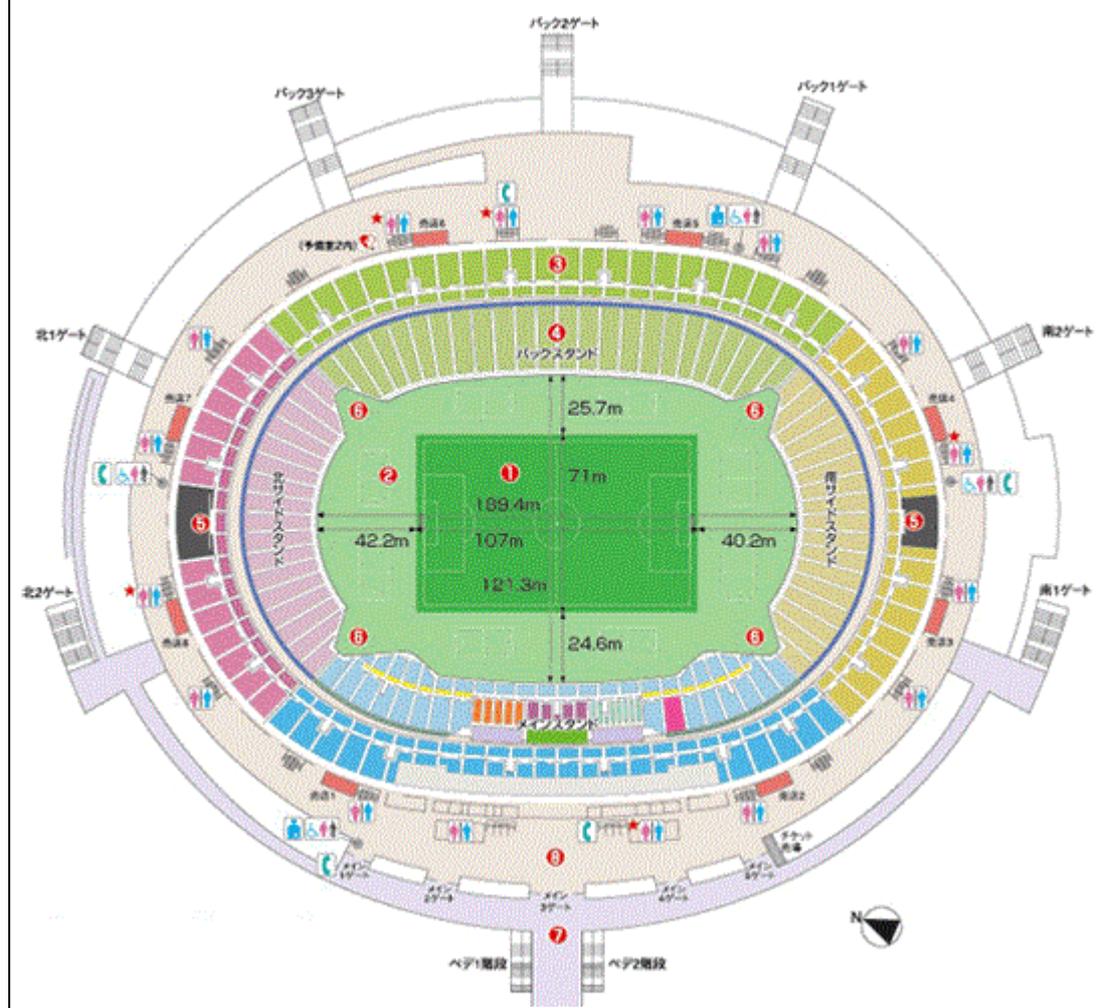
## (2) 味の素スタジアム

最大収容人数 5 万人を誇る、都内有数の天然芝フィールド。Jリーグ 2 チーム (FC 東京、東京ヴェルディ) が本拠地とするなど、スポーツ競技に広く用いられているほか、年間 3 件程度開催されるコンサートは収益の柱となっている。

表 8 味の素スタジアム設備概要

天然芝フィールド		107m×71m 約 7,600 平方メートル		
人工芝フィールド		約 12,600 平方メートル		
トラック		400m×9 レーン (全天候型塗装トラック)		
スタンド	一般席	20,600 席	常設車いす席	52 席
	ペアシート	220 席		※介護席 52 席付き
	招待席	218 席	臨時車いす席	342 席
	記者席	162 席	聴覚障がい者席	150 席
	臨時記者席	108 席	特別観覧室	10 名×10 室、計 100 席

平面図



## (ア) フィールド



(左)フィールドには中央部に天然芝(外部業者管理)が、周辺部には人工芝が敷かれている。  
(右)出入り部にはスロープが設けられ、車いす利用者が出入りしやすい構造になっている。



(左)メインフィールドの周囲にはフットサルコートが設けられている。このコートでは、毎年、ブラインドサッカーの大会が開催されている。  
(右)人工芝が張られている周辺部はトラックが設けられており、容易に切り替えられる。

## (イ) 観客席

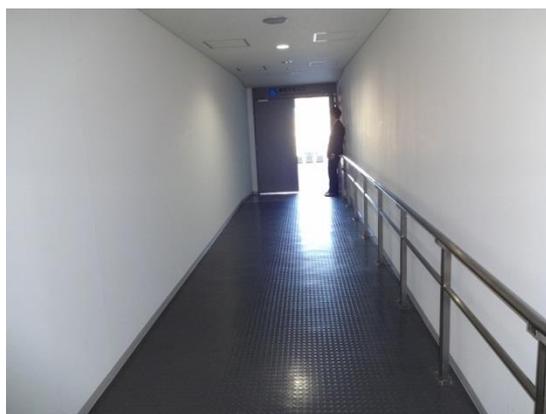
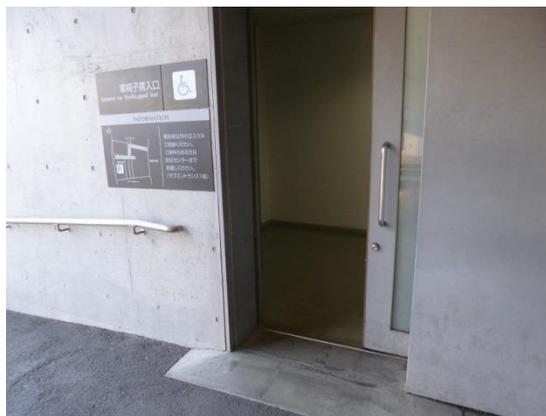


(左右)場内を周回する通路沿いに車いすスペースが確保されている。



(左右)車いすエリアからの風景。場内を広く見渡せる。

(ウ) 車いす席へのアプローチ



(上下左右)スタジアム周囲に車いす用駐車場が確保され、すぐに屋内にアクセスできる。そのままスロープでスタジアム内に進入でき、移動距離が短くて済む。公共交通によりアクセスする場合も、最寄駅からエレベーターを活用し、全てフラットな移動が可能になっている。

## (エ) サイン案内の整備



(左右)場内の案内図は配色も配慮され、見やすい。点字が打たれているほか、輪郭を立体的に縁取った触地図になっている。



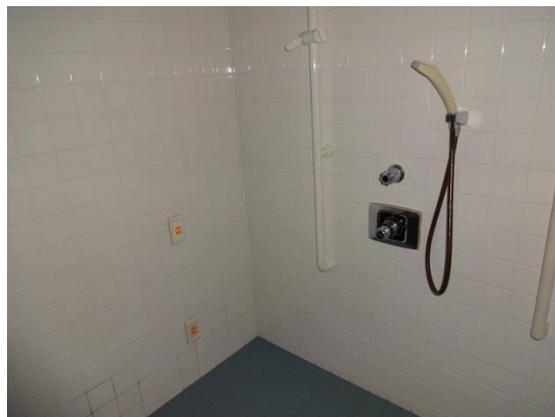
(左右)案内記号にはピクトグラムが採用されているほか、明度差も確保されている。

## (オ) トイレ



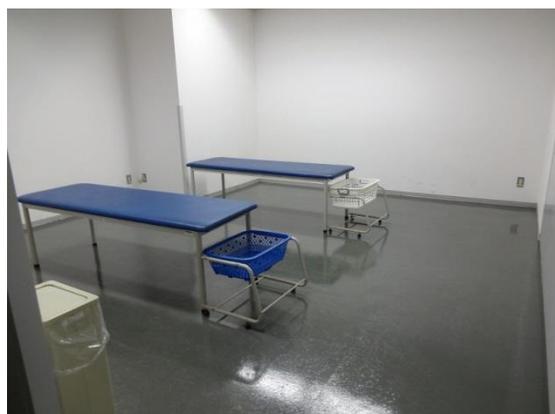
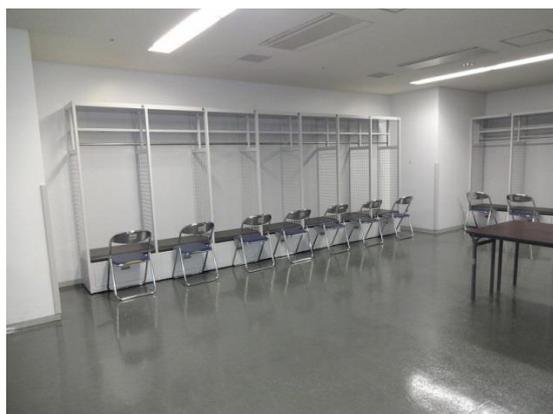
(左右)各所に備えられたトイレは、一般的な車いす用便器、オストメイトが整備されている。

(カ) シャワールーム



(左右)シャワールームには車いすでも利用できるブースがある。シャワーチェア、シャワーキャリーの類はない。呼び出しボタンが上下2か所に設置されるなどの配慮が見られる。

(キ) その他付帯設備



(左)ロッカールーム。固い床材の上に余裕をもってロッカーが配置されている。蹴込み部はないが、室内は車いすで容易に移動できる。

(右)更衣室の近くには、マッサージ室も設けられている。

### (3) アミノバイタルフィールド

味の素スタジアムに隣接するアミノバイタルフィールドには、最先端技術の人工芝が敷設され、アメリカンフットボールをはじめとする多くのスポーツに活用されている。

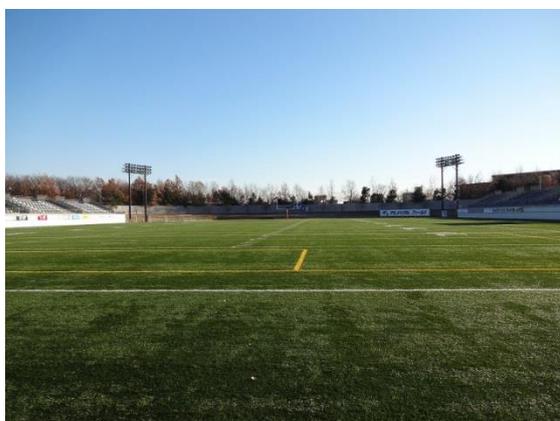
表 9 アミノバイタルフィールド設備概要

人工芝フィールド	120m×75m 約 9,000 平方メートル
野芝(アップエリア)	4,610 平方メートル
収容人数	3,060 名 車いす観戦席 41 席

平面図



(ア) フィールド内



(左右)全景。アメフトのラインが引かれている。芝目は深く、車いすの利用は難しい。

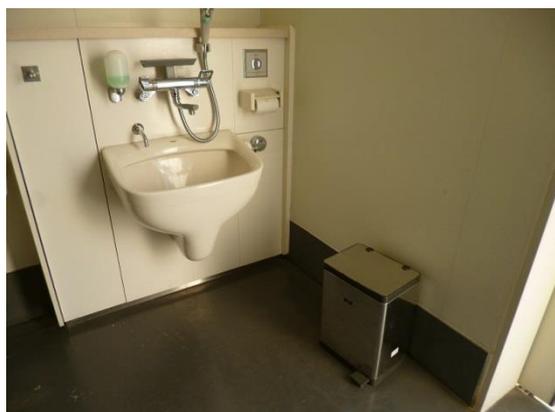
(イ) フィールド周辺



(左)大会本部等にアクセスするスロープ。フィールド内での車いすでの協議は難しいが、施設としては車いすに対応できている。

(右)フィールド脇の車いす観戦エリア。

(ウ) トイレ



(上下左右)トイレは仮設のものが設けられている。仮設とはいえ、中には車いす利用、オストメイト、ベビーシートが一式そろっている。

#### (4) 味の素スタジアム西競技場

味の素スタジアムの西隣に開設。天然芝が敷かれ、サッカーの都大会、ユースの試合などが開催される。

平日 14～17 時は一般開放(500 円)されているが、車いすアスリートによる利用は特にないとのことであった。

表 10 味の素スタジアム西競技場

競技場	約 19,000 平方メートル
トラック	1 周 400 メートル×8 レーン
天然芝フィールド	106 メートル×69 メートル
収容人数	800 名 芝スタンドでも観覧可能で合計定員 2000 名。

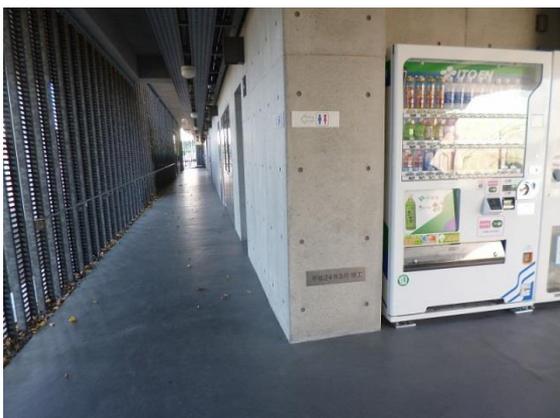
平面図

(ア) フィールド内外



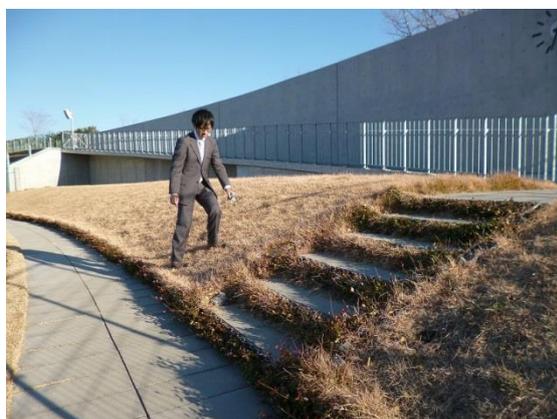
(左) 競技場周辺の状況。一面にアスファルト舗装が敷かれ、スペースも広く、移動しやすい。  
(右) フィールド内。天然芝フィールドをトラックが取り囲んでいる。

(イ) メインゲート周辺



(左) メインゲートからトイレ、更衣室、医務室に至る通路。完全にフラットになっている。  
(右) メインゲートからフィールドへの出入り口。スロープ幅は狭いが電動車いすで通行可能。

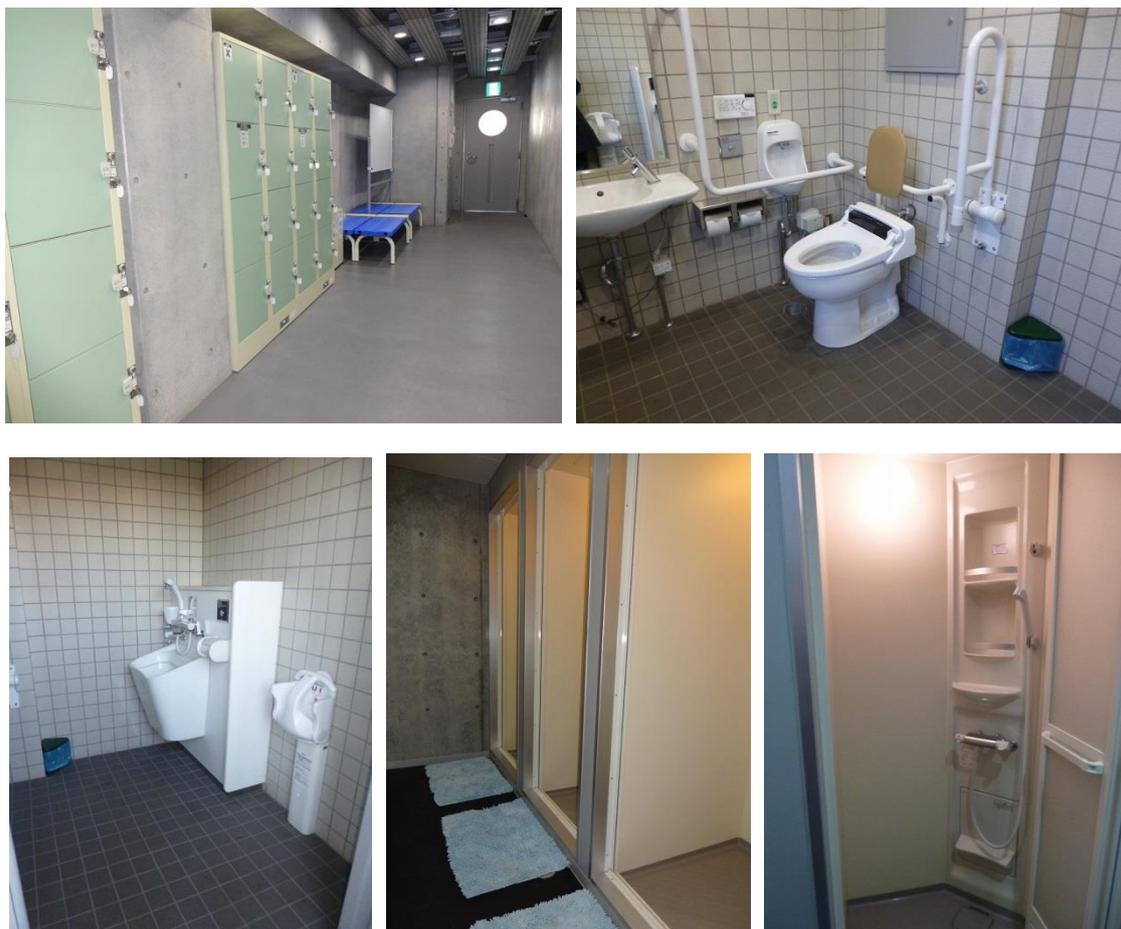
(ウ) スタンド周辺



(左)スタンド前部のスペースが、車いす専用座席として確保されている。

(右)競技場内は、アップダウンはあるが段差のない通行帯が一周している。スタンド等にもスロープは備けられているが、通行帯とスタンドをつなぐ階段部分には、スロープが設けられていない。今後の整備が待たれる。

### (エ) スタンド棟内部



(上左)更衣室内部。床面は堅い仕上げ材で、フラットになっている。

(上右、下左)トイレは、一般的な多目的トイレが整備されている。

(下中、下右)シャワーブース。写真にはないが、更衣室からシャワーブースに入る出入口には10cm程度の段差がある。シャワーブースも狭く、特にバリアフリーには配慮されていないが、トップアスリート等では気にせず利用する方もいるとのことだった。

### (5) 車いす利用者とサッカー

施設で開催される試合観戦時における、車いす利用者を含む障がい者対応は、主催者により異なる。

- ・ Jリーグチーム「FC 東京」の主催試合の場合、車いす利用者には「S 指定席」(前売り

5,200 円)を、半額以下となる「ホーム自由席」「ビジター自由席」の料金(前売り各 2,300 円)で提供している。

- ・ 1 試合当たりの観客数が全体で 2 万 5000 人程度に対し、車いす利用者は 10 人前後とのことだった。
- ・ 駐車場はバリアフリー対応スペースが 20 台分確保され、利用者は 1 時間当たり 300 円、料金を減額される。

## (6) 総評

味の素スタジアムは、比較的近年に整備されたこともあり、全般的にバリアフリーというよりはユニバーサルデザインの視点からよく設計されている。定期的に行われる Jリーグの試合でも、毎試合とも車いすの観客が訪れているし、ロッカールームのシャワー室は車いす対応であるなど、車いすアスリートにも対応している。

一方で、施設の外部は、都市構造がすでに出来上がっていたこともあり、必ずしもバリアフリーが完全に整備されているわけではない。



(左)味の素スタジアムの前の交差点には、3 基のエレベーターが設置されている。しかし、最寄駅からのアクセスルート上には 1 基しか設置されていない。競技場の収容人数(約 5 万人)および車いす席の最大利用可能人数(介助者を含め 446 名)とのアンバランスが生じている。

(右)競技場周辺の歩道の、点字ブロックの設置状況。法定上の幅員は確保されているかもしれないが、植栽が繁茂し、歩きづらくなっている。

周辺地域が、施設内の高い水準に匹敵するように整備される暁には、完璧な施設になると感じたが、現在でも国内有数の整備水準を誇っていると感じた。

## 2.3【視察】東京都障害者総合スポーツセンター

本事業では、東京都にある「東京都障害者総合スポーツセンター」(以下「センター」)の現地調査を行った。

当センターは、開業以来 30 年間で延べ 462 万人以上が利用する、障がい者スポーツのメッカである。障がい者スポーツの普及からトップアスリートの育成まで、大きな役割を果たしており、視察対象として選んだ。本節でセンターの概要を示す。



図 10 東京都障害者総合スポーツセンター

### (1) 施設概要

表 11 東京都障害者スポーツセンター施設概要

開設時期	1984 年 5 月 (宿泊棟は 1993 年 4 月)
所在地	東京都北区十条台 1-2-2 JR 埼京線十条駅徒歩 10 分
閉館日	毎週水曜日および年末年始等。大会開催日は一般の利用はできない。
運営形態	東京都が設置し、指定管理者である公益社団法人東京都障害者スポーツ協会が運営。
施設規模	敷地:2 万 1657 平方メートル 建物:6036 平方メートル、鉄筋コンクリート造2階建て(一部3階および地下1階あり)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設、宿泊施設、集会室等の利用公開</li> <li>・障がい者福祉に関する情報提供と相談</li> <li>・スポーツ初心者との相談、指導、レベルアップ指導などの、障がい者スポーツやレクリエーション活動の支援</li> <li>・日常のスポーツ活動の成果を発揮する場としての、記録会の開催</li> <li>・利用者、家族、地域の方々に相互理解を深めていただくための、地域交流行事の開催</li> <li>・障がい者スポーツ指導員の養成、育成に関する講習会等の開催</li> <li>・障がい者が身近な地域でスポーツに親しめるための環境づくりの支援</li> <li>・障がい者のスポーツクラブの育成支援</li> <li>・障がい者スポーツに関する研究開発</li> </ul>
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害者手帳、愛の手帳(療育手帳の東京都における呼称)、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた人</li> <li>・各障がいの手帳交付者と同程度の障がいのある人</li> <li>・障がい者の介護をする人</li> <li>・障がい者の福祉増進を目的とする団体</li> <li>・その他、特に都知事が認める人</li> </ul>

## (2) 事業概要

センターでは、管理運営する運動施設を利用者に貸し出しているほか、センターが主体となった多くの取り組みを実施している。それらは「健康スポーツ相談」「スポーツ導入教室」「日常施設開放」「スポーツ教室」「大会」「講習会」「地域交流事業」「地域振興事業」に分けられる。このうち「スポーツ教室」の概要を表 12 に示す。(同種の取り組みは統合したほか、事業名称は略記したものもある)

表 12 東京都障害者総合スポーツセンターの実施するスポーツ教室(2013 年度)

事業種類	事業名	定員	回数
測定評価	健康運動指導士・介護予防運動指導員による体力測定	なし	3 回
	ミニ記録会(陸上・水泳)	なし	2 回
入門教室	はじめよう!卓球入門	なし	12 回
	はじめよう!テニス入門	なし	5 回
	はじめよう!サッカー入門	50 名	6 回
	水泳入門(障害児者)	15 名	6 回
	水泳入門(知的・身体障害児者)	30 名	12 回
	アーチェリー入門①②	8 名	16 回
	水泳入門教室	10 名	10 回
中・上級教室	ワンランクアップアーチェリー	なし	11 回
	ワンランクアップ水泳	30 名	6 回
	いけいけスイミング	20 名	8 回
	いけいけランニング	20 名	5 回
	卓球ラリータイム	なし	10 回
アウトドア教室	スキー教室	30 名	1 回
	ノルディックウォーキング教室	なし	12 回
アスリートサポート	バドミントン選手育成教室	30 名	8 回
	ブラインドサッカー教室	20 名	6 回
	車いすテニス選手育成教室	20 名	11 回
	水泳選手育成教室	40 名	10 回
	シンクロナイズドスイミング教室	20 名	4 回
	都大会前サッカー教室	50 名	3 回
	車いすバスケットボール選手育成教室	15 名	10 回
	めざせ!「陸上大会」①②	20 名	4 回
	スローイング・タイム	なし	13 回

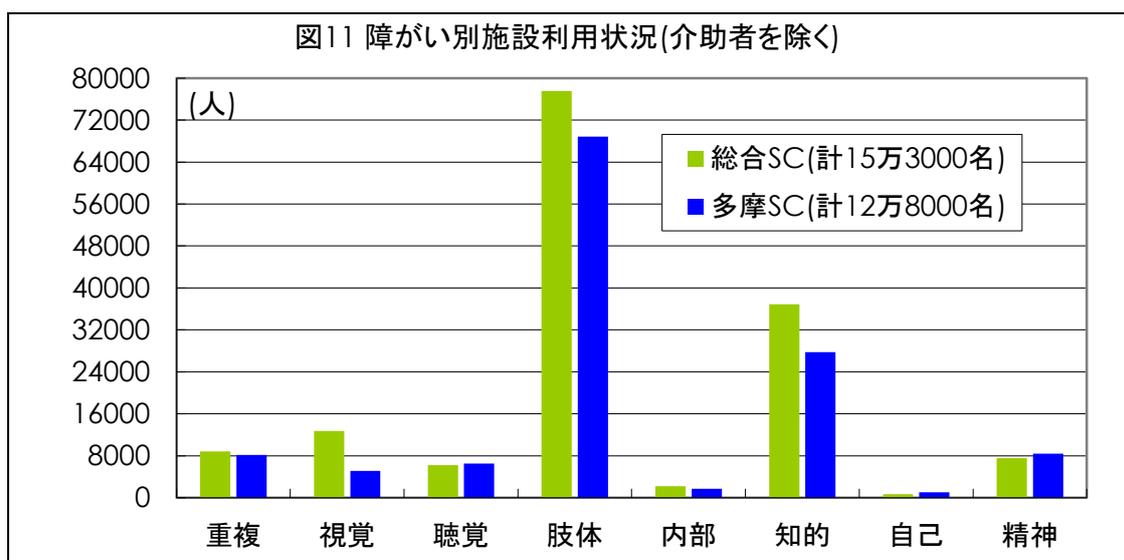
※前ページからの続き

事業種類	事業名	定員	回数
地域交流教室	みんなでバドミントン	なし	5回
	みんなで卓球	なし	4回
	みんなでテニス	なし	4回
	みんなでブラインドテニス	なし	4回
	あそびのひろば	なし	10回
	レッツ!車いすバスケ	なし	4回
ジュニア対象教室	ジュニア車いすスポーツ教室	20名	9回
	わんぱくCLUB①②(知的障害児とその保護者ペア対象)	10組	14回
	わんぱくキッズ(知的障害児とその保護者ペア対象)	15組	6回
重度障害者対象教室	重度障害者のためのプール開放	なし	9回
介護予防支援教室	脳血管障害者のトレーニングセミナー	30名	3回
	関節障害者のトレーニングセミナー	30名	2回

### (3) 利用状況

2012年度の利用者は、総合スポーツセンター、多摩スポーツセンターを合わせ 37 万人(うち障がい者は 28 万人)に上った。

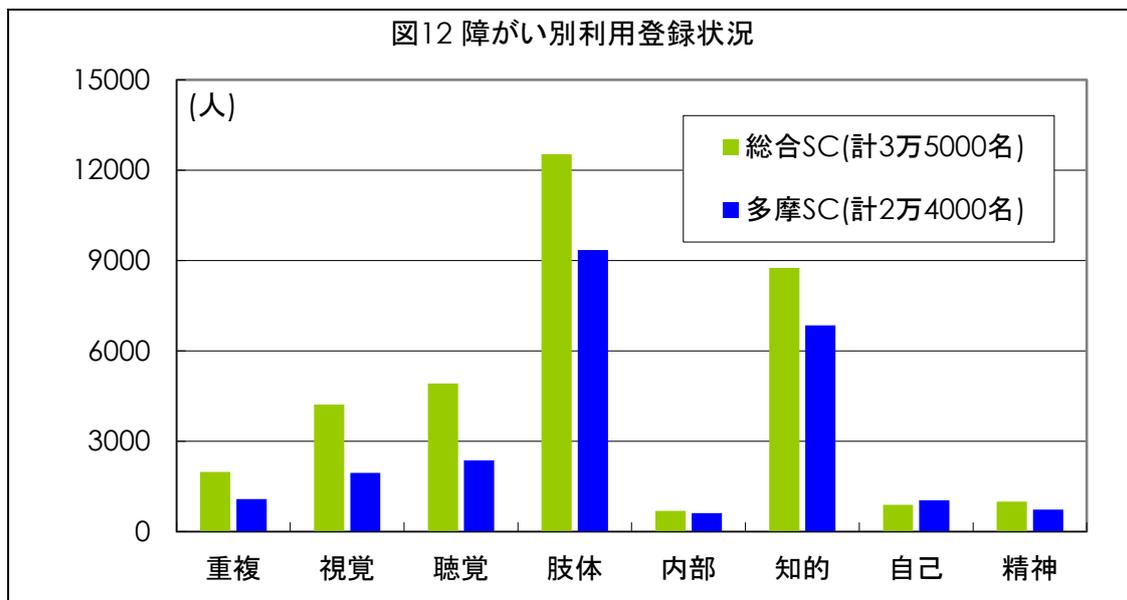
両施設合わせての利用登録者は 5 万 9000 人を数え、東京都における障害者手帳所持者(62 万人)の約 1 割を占めている。率としては低いですが、施設を利用している人は、有意義に活用している状況と言える。2012 年度の施設利用状況を図 11～図 14 に示す。



図中「重複」は、2種以上の障がい併せ持つ方を示す。

「自己」は、「障害者手帳の交付を受けるに値する程度の障害を有しているが、手帳は持っていない者で、主治医の診断書等により利用証の交付を行った者」を示す。

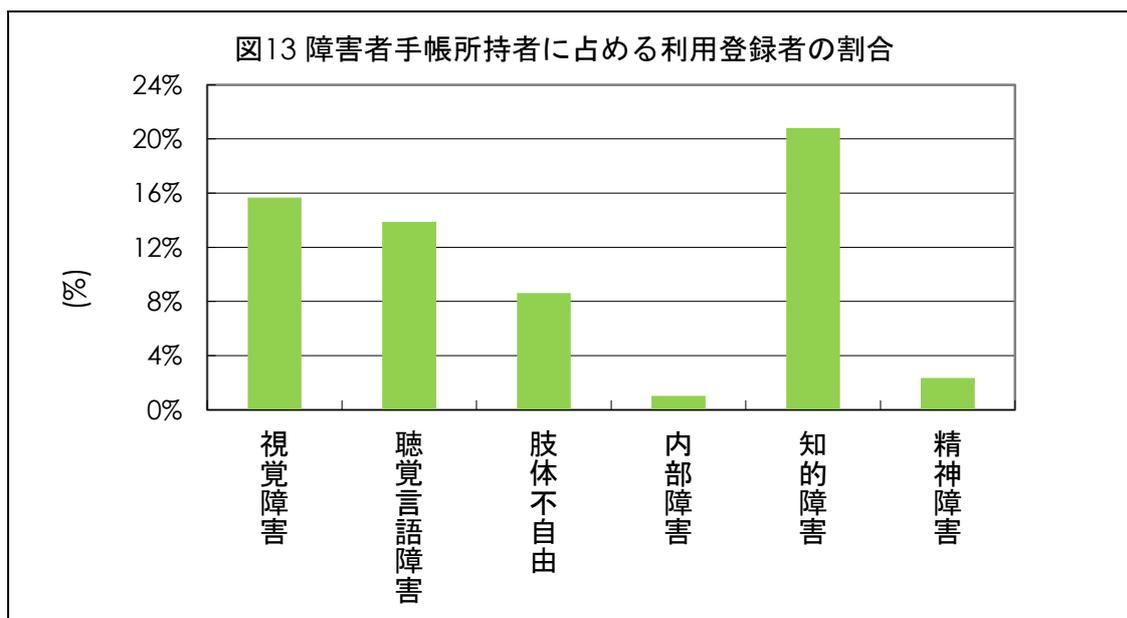
2012年度の開館日数は総合SC、多摩SCとも301日であり、1日当たり総合SCは663名、多摩SCは573名が利用したことになる。



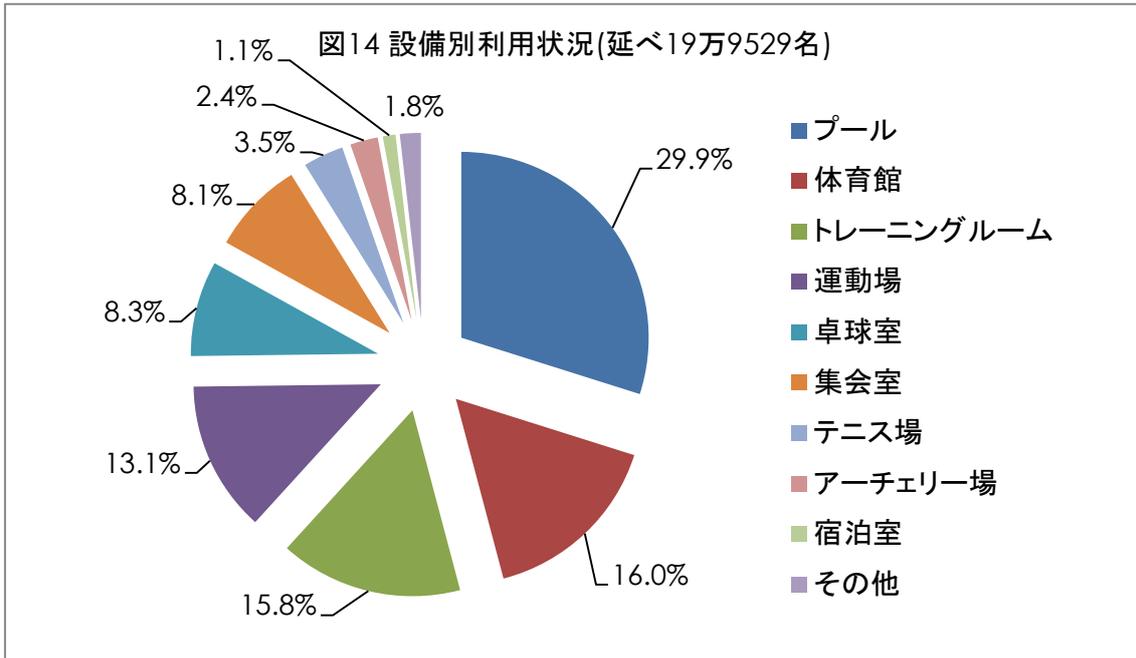
図中「重複」は、2種以上の障がい併せ持つ方を示す。

「自己」は、「障害者手帳の交付を受けるに値する程度の障害を有しているが、手帳は持っていない者で、主治医の診断書等により利用証の交付を行った者」を示す。

前年度に比べ、両施設を合わせて利用登録者は1803名増加している。



知的、視覚、聴覚言語の障がい者は比較的多く、肢体不自由、内部、精神障害は少ない。



施設内の設備別にみると、プールの利用が最も多い。以下、運動場までが 1 割を超えている。「その他」には、「印刷室(0.6%)」「スポーツ広場(0.5%)」「図書室(0.4%)」「相談(0.2%)」「録音室(0.1%)」が含まれる。(利用者総数には、介助者も含んでいる)

#### (4) 視察結果

2013年12月13日9時30分より、センターの視察を行った。一部、利用中であつたり、プライバシー保護の観点から写真撮影が許されなかつた施設もある。主な設備について以下に紹介する。

##### (ア) 体育館

冷暖房装置をはじめ、試合や大会のための電光掲示板、放送設備等一通りの機能がそろそろほか、競技用車いすの貸出などの対応も行っている。見た目上は、健常者向けの一般的な体育館と変わらない。視察時には利用者は少なかったが、採光部も大きく、気持ちよく運動ができる環境であると感じた。

バスケットボール、バレーボール、ゴールボール、シッティングバレーボールは各1面、ボッチャ、バドミントンは各3面確保できるとのことであった。



### (イ) 屋内温水プール

25m×6コースが確保されている。水中に入りやすくするためにサイドに昇降口が設けられたり、プールを囲んで誘導ラインが引かれるなどの配慮がなされている。



### (ウ) 卓球室・サウンドテーブルテニス室

卓球室とサウンドテーブルテニス室が併設され、一般用卓球台が3台(内2台はユニバーサルデザイン)、サウンドテーブルテニス用卓球台1台が備えられている。



左:一般の卓球台



右サウンドテーブルテニス台

### (エ) 運動場

陸上トラック1周 200m×6コース、直線 110mを確保できる、全天候舗装の陸上競技場がある。視察時には、グラウンドソフトボールの投球練習をする方、歩行訓練を行う中途の視覚障がい者の方がいた。



運動場全景

### (オ) アーチェリー場

的数 8 台、最長 50m まで対応できる的場が設けられている。場内には白線が引かれ、テニスコート、フットサルコートなどにも転用できる。

利用者によると、センターのアーチェリー場は、障がい者対応施設の中では最も整っている、屋外にあるため、風の影響を受けるので、練習にもよい、とのことだった。



### (カ) テニスコート

ウレタン表層仕上げの硬式テニスコートが 2 面整備され、ラケット、ボールの貸出しも行われている。視察時は、車いすテニス界の第一人者である星義輝氏が、後進の指導にあっていた。



### (キ) 送迎バス

センターは、最寄駅から 10 分ほどの距離があること、最寄駅自体乗り入れ路線も少なく、乗り換えを要する方も多いことなどから、主要なターミナル駅である池袋駅などへの送迎バス(リフト付)を無料運行している。視察時の便も満席に近く、移動手段として定着していることがうかがわれた。館内もあちこちに時刻表が見やすく掲示されている。



左:池袋駅の停留所。毎月の休館日やお知らせが掲示されている。

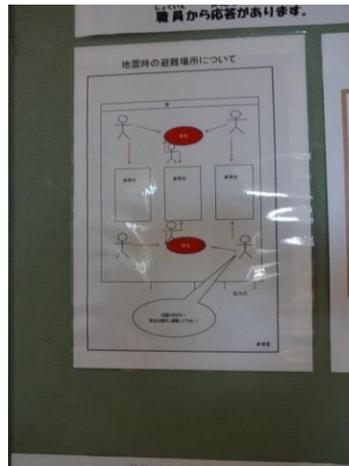
右:池袋駅からの乗車風景。



左:館内のあちこちに、送迎バスと、最寄りの一般路線バスの時刻も掲示されている。  
右:使用されている車両には、リフトが備えられている。

### (ク) その他

その他、館内設備で障がい者の利用に配慮されている点などについて記す。



左:図書室も設置されている。スポーツ、医学、健康福祉などの資料がそろっている。  
中:災害時の緊急避難の案内も掲示されている。写真は卓球室のもの。  
右:館内入口脇には、盲導犬の待機スペースも用意されている。



左:視覚障がい者の白杖に反応し、音声案内を行う装置が随所に取り付けられている。  
右:ベッドが備えられた「ケア・ルーム」を兼ねたトイレ。



左:施設内の水飲み場。車いすの方も水を飲めるような形状をしている。

右:階段下のデッドスペースを活用し、電動車いすの充電コーナーが設けられている。



左:飲料の自動販売機は、車いすでも利用できる高さにボタン、硬貨投入口がある。

右:商品名は平仮名表記され、難しいデザインでも理解できるようにしている。点字もある。

## (5) 総評

### ・利用のされ方

東京都障害者総合スポーツセンターは、障がい者の健康増進、社会参加を促進するために開設された。視察した限りでは、今日、その目的が十分に実現されていると感じる。

施設の方のお話でも、本格的に障がい者スポーツをたしなむ方よりは、脳血管障害を負った方や中途障がいになった方が、リハビリのために通う方のほうが多いとのことだった。視察した限りでも、高齢の方、サークルなどでの利用も目立っていた。

### ・障がい者スポーツとの関わり

比率としては多くないとされた、本格的にスポーツを楽しむ利用者だが、施設自体の利用者が多いため、利用者数としては少なくない。施設としても、館内に合宿施設(6 部屋、定員 24 名)を備えており、2012 年度は 2000 人以上が利用している。また、大会も多数開催している(表 13)。

表 13 センターで開催されたスポーツ大会(2013 年度)

大会名	対象
第 4 回はばたきジュニアスポーツ交流大会	18 歳以下の障がい児者・健常者
第 12 回はばたきターゲットバードゴルフ大会	障がい児者・健常者
第 20 回はばたきグラウンド・ゴルフ大会	障がい児者・健常者
第 24 回はばたきバドミントン大会	障がい児者
第 26 回はばたき陸上外界	障がい児者・健常者
第 27 回はばたきテニス大会	障がい児者・健常者
第 27 回はばたきアーチェリー大会	高校生以上の障がい児者・健常者
第 28 回はばたき水泳大会	障がい児者
平成 25 年度障がい者スポーツ交流大会(中・上級者)	障がい児者・健常者

陸上競技やゴールボールなどでは著名な指導者がいることなどから、国内から選手が集まってきている。また、個別には具体的な把握はしていないものの、私的な練習で訪れる選手も見られるとのことだった。現に、視察時は車いすテニスの第一人者が指導を行っており、そのような利用も多いものと思われる。

・東京パラリンピックに向けて

今年度、2020 年の東京パラリンピック開催が決定した。それに伴い、「パラリンピックに出たい」「ボランティアで参加するにはどうすればよいか」などの問い合わせは寄せられてはいるものの、問い合わせの総数は多くない。海外からの問い合わせも、現時点では寄せられていないとのことである。

これは、すでに施設が障がい者スポーツのメッカとして広く認知されていることが理由ではないか、との見解であった。

以上の点を踏まえると、東京都障害者総合スポーツセンターは、障がい者スポーツに本格的に取り組む方から、傷病からのリハビリのために活用する方まで、さまざまな方が施設を利用しているものと考えられる。

また、リフトバスによる無料送迎は、車社会の沖縄では生まれにくい発想だが、社会インフラのバリアフリー整備が進まない沖縄にも強く求められるサービスであると感じる。

その他、地域とのつながりを深めるための取り組みも積極的に行っており、障がい者スポーツ一辺倒ではない、広く門戸の開かれた運営がなされている。

人々に愛され、利用される施設として、非常に参考になる施設であると考えられる。

## 2.4 第 13 回全国障害者スポーツ大会(スポーツ祭東京 2013)

毎年開催される、全国障害者スポーツ大会は、本年度、「スポーツ祭東京 2013」の名の下、第 68 回国民体育大会と一体的に、東京で開催された。今年度で 13 回を数えている。

開会式、閉会式が開催された味の素スタジアムおよび、アーチェリー競技が開催された「三鷹市大沢総合グラウンド」の状況をまとめた。

### (ア) 味の素スタジアム



(左右)味の素スタジアムで行われた開会式時の入場(左)、閉会式(右)の様子。

車いす選手は介助者に導かれて入場する。車いすのまま芝生上に整列し、介助者は添えられた丸椅子に座っている。

### (イ) 三鷹市大沢総合グラウンド



(左右)駐車場、競技場内の様子。

芝生や土の路面にはプラスチックパネルが敷き詰められ、車いすでの行き来が容易になるように配慮されている。



(左右) 競技場内の様子。

各施設間もパネルが敷かれている。右は選手の控えテント。一定の空間が確保されている。



(左右) トイレの様子。(写真は三鷹だが)味の素スタジアムでは、仮設トイレが 22 基(うち 3 基はオストメイト対応)用意された。



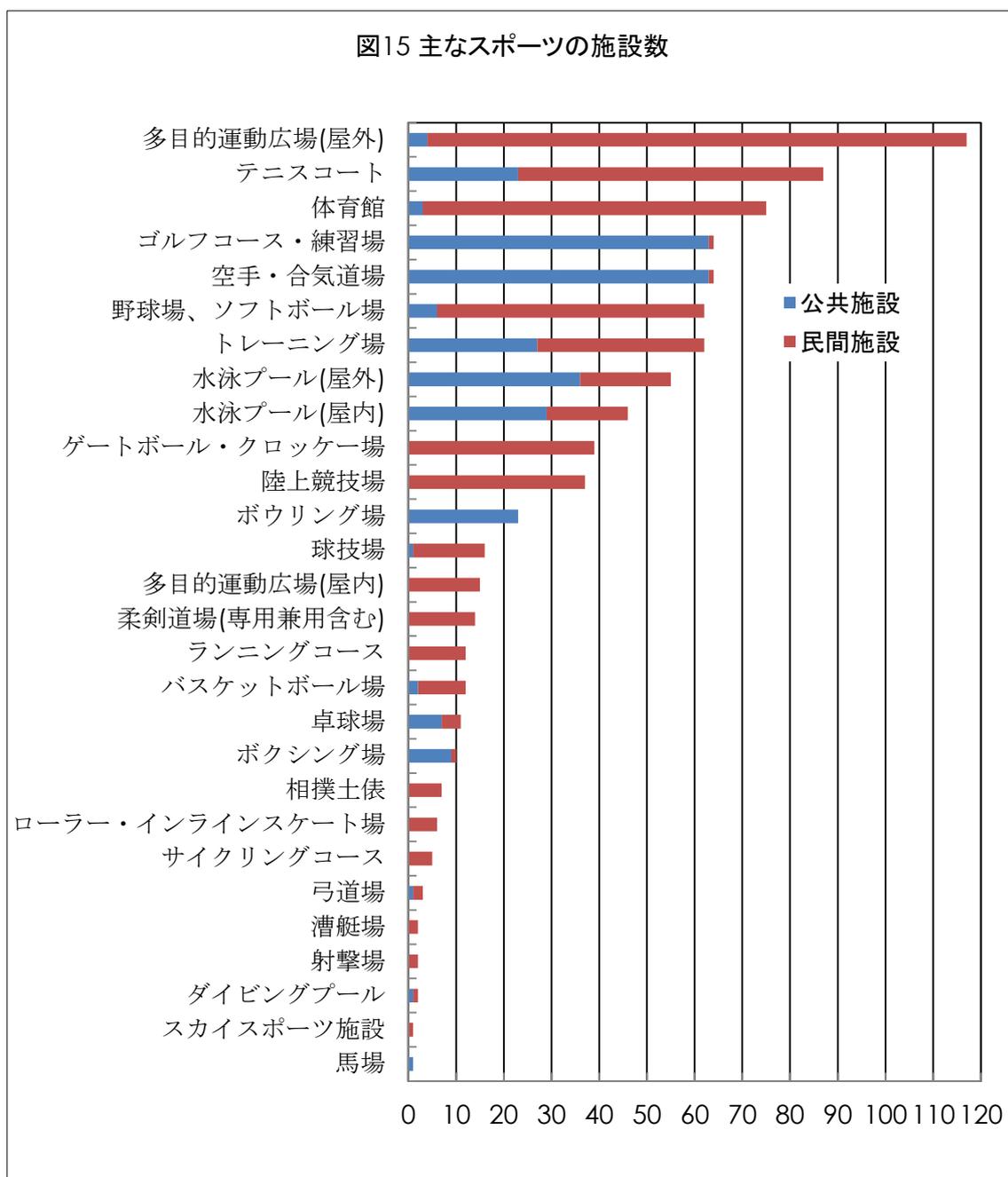
(左) 周辺には飲食店の移動販売車が出店し、安らぎを提供している。

(右) スポーツ祭東京 2013 のマスコットキャラクター「ゆりーと」

### 3. 県内運動施設のバリアフリー整備状況

#### 3.1 沖縄県内のスポーツ施設数

沖縄県内には、多くのスポーツ施設がある(図 15)。それらのうち、規模やアクセス性等の観点から抽出した代表的な個所について、バリアフリー整備状況(特に、車いすアスリートが利用可能かどうか)を調査した。(出典:「沖縄県体育・スポーツ施設現況調査報告書」2013年3月)



### 3.2 主要施設利用情報

現況調査を行った施設の一覧を表 14 に、位置を図 16 に示す。

表 14 調査施設

所在地		施設名称	所在地		施設名称
1	那覇市	奥武山総合運動場 那覇市民体育館	7	恩納村	恩納村赤間多目的運動場 赤間総合運動公園
2	糸満市	西崎運動公園	8	宜野座村	宜野座村総合運動公園
3	浦添市	浦添運動公園 サン・アビリティーズうらそえ	9	名護市	21世紀の森体育館
4	宜野湾市	宜野湾海浜公園	10	今帰仁村	今帰仁村総合運動公園
5	沖縄市	沖縄県総合運動公園 沖縄市立総合運動場	11	国頭村	くいなエコ・スポレク公園
6	読谷村	読谷村体育施設	12	久米島町	久米島町総合運動公園
			13	宮古島市	宮古島市陸上競技場周辺
			14	石垣市	石垣市総合体育館 石垣市中央運動公園 サッカーパークあかんま

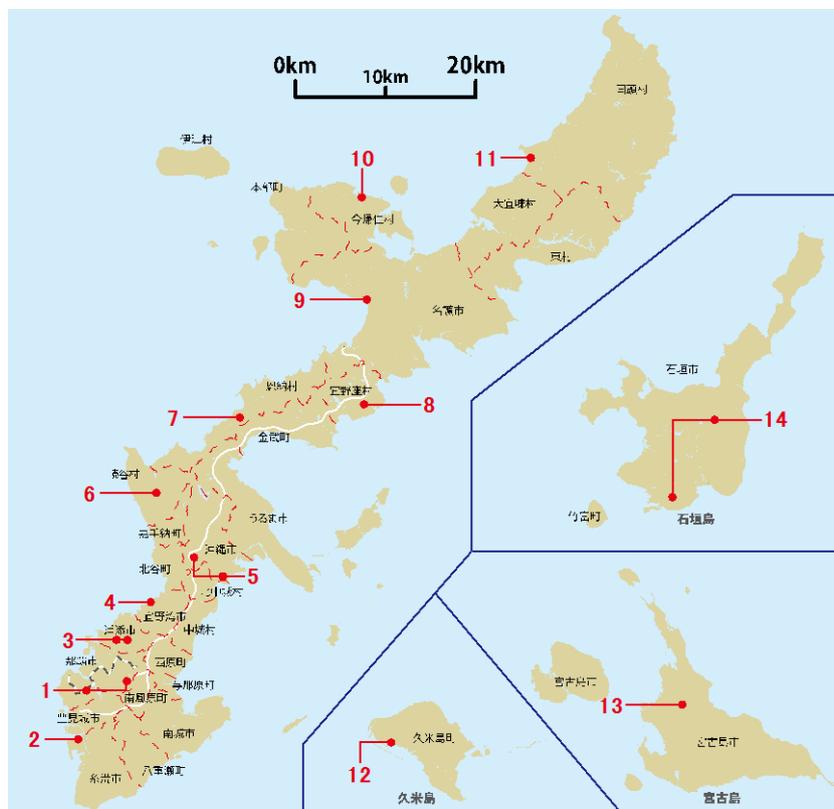


図 16 調査施設の位置図

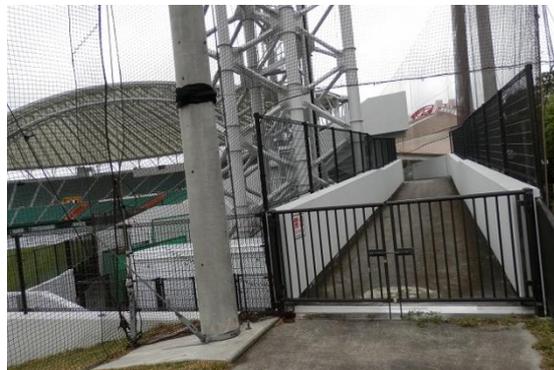
## (1) 奥武山総合運動場、那覇市民体育館(那覇市)

### (1)-1: 奥武山総合運動場

主な施設	施設概要	
沖縄セルラースタジアム那覇	仕様	・両翼 100m、中堅 122m ・内野:黒土混合土、外野:天然芝
	観客	・内野固定席 15,000 席(車いす最大 69 席)、外野スタンド立ち見約 15,000 席
	付帯	・ウォーミングアップ室、野球資料館、大会議室、小会議室
沖縄セルラーパーク那覇	仕様	・野球練習、レクリエーション、小運動会、ミニサッカー(フットサル)、ドッジボール等に対応 ・人工芝
武道館アリーナ棟	仕様	・剣道柔道6面、空手8面、なぎなた4面、ハンドボール2面、バドミントン8面、バレーボール2面、バスケットボール2面、卓球24台
	観客	・固定席 1,319 席、最大収容約 3,000 席
武道館錬成道場棟	仕様	・各種武道の公式競技場 2 面確保可能
	観客	・360 席
	付帯	・会議室(定員 54 名)、トレーニングルーム、資料室、相撲場(土俵は競技用練習用各 1、観客席 170 席)、更衣室、防具乾燥室、修養室(定員 18 名)、研修室(定員 72 名)
弓道場	仕様	・近的場 10 立、遠的場 6 立
	付帯	・ミーティング室
陸上競技場	仕様	・アンツーカー舗装 400mトラック×8 コース ・助走路全天候型ウレタン舗装
庭球場	仕様	・オムニコート 13 面
水泳プール	仕様	・屋外 50m×8 コース(公認)、屋外 25m×6 コース
	観客	・1,063 席(車いす席 6 席)



セルラースタジアム内医務室



セルラースタジアム観戦席へのスロープ



セルラースタジアム内会議室



セルラーパーク触地図



プール更衣室内、車いす対応シャワールーム



屋外プール車いす観戦席



プール内医務室



庭球場



のびのび広場内はクルマ以外優先の思想



売店付近の車いすトイレは空間が広い



武道館



武道館内会議室



武道館内柔道場



武道館掲出の災害時避難路



陸上競技場の車いす対応公衆電話

(1)-2: 那覇市体育館

主な施設	施設概要	
那覇市体育館	仕様	<p>【メインアリーナ】・6人制・9人制女子バレーボール:公式3面・練習6面、9人制男子バレーボール:公式1面、練習6面、バスケットボール公練3面、バドミントン公練14面、卓球公練20面(保有する卓球台数は15台)、ハンドボール(練習のみ)1面、フットサル公練2面</p> <p>【サブアリーナ】・6人制・9人制女子バレーボール練習2面、9人制男子バレーボール練習2面、バスケットボール公練1面、バドミントン公練4面、卓球公練10面</p>
	観客	・スタンド席 3,000席
	付帯	・会議室 3室、トレーニング室



建物入口は車いす用の動線が確保されている 消えかけてはいるが、低い視線の誘導表示



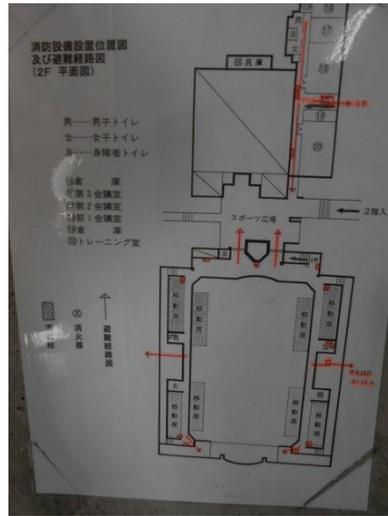
メインアリーナ



会議室



入口の段差はスロープで対応



緊急時の誘導案内図



一部には段差が残る箇所もある



車いす利用可能なエレベーター



車いす対応トイレ例



車いす対応トイレ例

## (2) 西崎運動公園(糸満市)

主な施設	施設概要	
西崎総合体育館	仕様	・メインアリーナ:バドミントンコート8面、バレーコート3面、バスケットコート2面、ハンドボールコート1面 可能 ・サブアリーナ:柔剣道・バレーコート1面、バドミントンコート3面
	観客	・固定席 376 席、立見席 440 席
	付帯	・トレーニング室、会議室、医務室、シャワー室
西崎陸上競技場	仕様	・1周 400m、直線 115m×8 コース ・全天候舗装(ウレタン、エンボス形状) ・3,000m 障害池、各種投擲場
	観客	・メインスタンド 3,000 席、芝スタンド 6,000 席
	付帯	・トレーニング室、医務室、シャワー室
西崎球場	仕様	・両翼 97.6m、中堅 122m
	観客	・メインスタンド 2,500 席、内野スタンド 3,000 席、外野スタンド 6,500 席
西崎庭球場	仕様	・全天候サンドグラスコート4面
西崎プール	仕様	・屋内 25m プール 6 コース
	付帯	・シャワー室、会議室
ホテルスポーツ ロッジ糸満	仕様	・洋室 21 室、和室 4 室、和洋室 2 室、全てツインルーム ・全室冷暖房、テレビ、衛星放送、空の冷蔵庫 ・タオル、シャンプー、石鹸、歯ブラシ、パジャマ、ドライヤーあり
	付帯	・大浴場、サウナ ・車いす対応トイレ、貸出用車いすあり



総合体育館へのスロープ



総合体育館内部



オストメイト、ベビーベッド付(総合体育館)



テニス場



プール入口脇に、身障者専用駐車場を確保



プール施設内会議室



ホテルスポーツロッジ系満外観



ホテル内車いす対応トイレ

### (3) 浦添運動公園、サン・アビリティーズうらそえ(浦添市)

#### (3)-1: 浦添運動公園

主な施設	施設概要	
陸上競技場	仕様	・400mトラック×8レーン(第3種公認)
	観客	・メインスタンド1,806席、サブスタンド502席、芝スタンド3,946席
市民球場	仕様	・両翼98m、中堅122m
	観客	・メインスタンド3,461席、内外野スタンド計11,038席
市民体育館	仕様	・ハンドボール2面、バレーボール6面、テニス3面、バドミントン3面、卓球2面可能
	観客	・1,029席
多目的屋内運動場	仕様	・ドッジボール6面、ゲートボール4面、軟式テニス4面可能



体育館の入口



体育館内車いすトイレ



体育館内メインアリーナ



多目的屋内運動場入口



陸上競技場サーフェス



陸上競技場内車いすトイレ

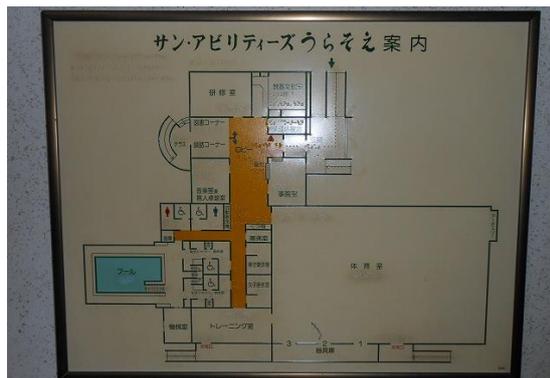
### (3)-2: サン・アビリティーズうらそえ

主な施設	施設概要	
サン・アビリティーズうらそえ	仕様	・体育館 2,172 平方 m
	付帯	・温水プール、盲人卓球室、トレーニング室、更衣室、シャワー室、研修室

※サン・アビリティーズとは、障がい者の教養・文化および体育の向上を図り、社会参加を促進するための施設として、全国 30 か所以上に設置されている。



施設入口



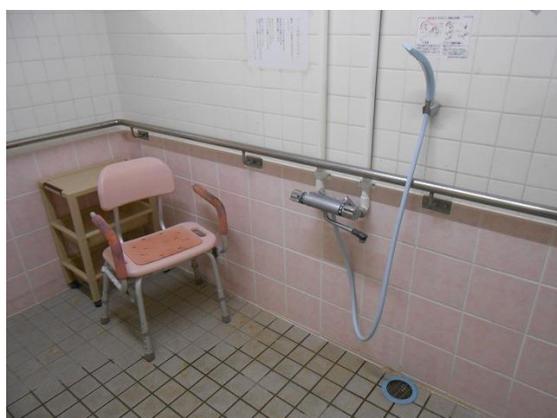
触地図が掲出されている



男女別に設置された多目的トイレ



プールにも工夫が凝らされている



シャワーチェア付シャワールーム



トレーニング室

#### (4) 宜野湾海浜公園(宜野湾市)

主な施設	施設概要	
宜野湾市立グラウンド	仕様	・全天候型 400mトラック×8 レーン ・フィールド:コウライシバ
	観客	・メインスタンド 1,200 席
	付帯	・会議室、シャワー室
宜野湾市立野球場	仕様	・両翼 95m、中堅 120m ・内野:黒土、外野:コウライシバ
	観客	・メインスタンド 3,000 席、内野スタンド 2,800 席、外野スタンド 6,000 席
	付帯	・会議室
宜野湾市立体育館	仕様	・バドミントン 12 面、バレーボール 3 面、バスケットボール 2 面、ハンドボール 1 面、卓球台 20 台
	観客	・固定席 1,212 席、移動席 288 席
	付帯	・トレーニング室、会議室、シャワー室
宜野湾海浜公園庭球場	仕様	・全天候型コート 6 面
	付帯	・シャワー室



テニスコート現状



チェンジングボード付トイレ(テニス)



多目的トイレ(体育館)



会議室(グラウンド)

## (5) 沖縄県総合運動公園、沖縄市立総合運動場(沖縄市)

### (5)-1: 沖縄県総合運動公園

主な施設	施設概要	
陸上競技場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全天候型400mトラック×8レーン(第1種公認)、直線100m×8レーン</li> <li>・屋内雨天走路 70m×4レーン</li> <li>・レーン:全天候型ウレタン舗装</li> <li>・フィールド:コウライシバ</li> </ul>
	観客	・メインスタンド 7,000 席、バック、コーナースタンド 18,000 席
	付帯	・会議室、トレーニング室、シャワー室
補助競技場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・400mトラック×6レーン、直線100m×8レーン</li> <li>・レーン:全天候型ウレタン舗装</li> <li>・フィールド:セントオーガスチングラス</li> </ul>
体育館	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボール 3 面、バスケットボール 2 面、バドミントン 8 面、卓球 20 面、ハンドボール 2 面、体操競技(50m×40m) 可能</li> <li>・サブアリーナ:卓球(練習 10 面、公式 5 面) 可能</li> </ul>
	観客	・固定式 1,100 席、収納式 416 席
	付帯	・会議室、トレーニング室、シャワー室
蹴球場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー、ラグビーコート 2 面</li> <li>・コート:セントオーガスチングラス</li> </ul>
庭球場	仕様	・オムニコート 16 面
	付帯	・更衣室、シャワー室
水泳プール	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50m 屋外プール(夏季のみ):9 コース、水球可能</li> <li>・25m 屋内プール:6 コース</li> </ul>
レクリエーションドーム	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボール 1 面、テニス 8 面、ゲートボール 10 面 可能</li> <li>・全天候型砂入り人工芝</li> </ul>
	付帯	・シャワー室



サッカー場



サッカー場の、男女別の車いすトイレ



テニスコート



屋外プール



プールの障がい者用駐車場は段差もクリア



車いす利用者優先ロッカー(プール)



車いす対応シャワー(屋内練習場)



車いす対応自動販売機(屋内練習場)



屋内練習場



体育館



体育館内の段差はスロープでクリア



体育館内の医務室

## (5)-2: 沖縄市立総合運動場

主な施設	施設概要	
沖縄市陸上運動場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全天候型 400mトラック×8 レーン(第1種公認)</li> <li>・障害物競走路 3,000m</li> <li>・ジョギングコース(延長天然芝 1km×幅 3m)</li> <li>・トラック、助走路、アウトフィールド:トップコート(T&amp;F 舗装材)</li> <li>・インフィールド:天然芝(ティフトン)</li> <li>・スピード体感走路(100m、傾斜 3.49 度)</li> </ul>
	観客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインスタンド 3,400 席、サイド・バックスタンド 10,000 席</li> <li>・車いす席 24 席</li> </ul>
	付帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室((定員 30 名)×2、定員 10 名×1)、医務室、更衣室、シャワー室、トレーニングルーム</li> </ul>
沖縄市体育館	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボール 3 面、バドミントン 14 面、卓球 20 面、6 人制バレーボール 6 面、9 人制バレーボール 3 面、ハンドボール 2 面</li> </ul>
	観客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定席、移動席計 2,091 人</li> <li>・車いす席 8 席、貴賓席 24 席</li> </ul>
	付帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的ルーム(定員 30 名)×4、エレベーター、更衣室、シャワールーム</li> </ul>
沖縄市武道館	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道場 2 面、剣道場 2 面、弓道場 6 人立ち</li> </ul>
	観客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道場 76 席、剣道場 86 席、弓道場 50 席</li> </ul>
	付帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室(定員 30 名)、医務室、更衣室</li> </ul>
コザしんきんスタジアム	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両翼 100m、中堅 122m</li> <li>・内野:クレイ舗装、外野:天然芝</li> </ul>
	観客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインスタンド 6,000 席、バックスタンド 9,000 席</li> </ul>
沖縄市庭球場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレイコート 5 面</li> </ul>
沖縄市サッカー場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・65m×100m×1 面、フットサル 2 面、ミニサッカー4 面 可能</li> </ul>
	観客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・784 名</li> </ul>
沖縄市庭球場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレイコート 5 面</li> </ul>
沖縄市多目的運動場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1,453 平方 m</li> <li>・フットサル 2 面、テニス 2 面 可能</li> </ul>



陸上競技場外観



使い勝手の良いミーティング室(陸上競技場)



陸上競技場の車いす観戦席



多目的運動場入口



体育館客席の一部に磁気ループを整備



客席にアプローチするエレベーター(体育館)



車いす利用に対応した洗面所(体育館)



医务室(体育館)



シャワーチェア・シャワーキャリーを完備(体育館)



武道館入口



段差のない柔道場(武道館)



段差のない弓道場(武道館)

**(6) 読谷村体育施設(読谷村)**

主な施設	施設概要	
読谷村体育センター	仕様	・バドミントンコート3面、バレーコート2面、バスケットコート1面、卓球台8台 可能
	付帯	・シャワー室
読谷村陸上競技場	仕様	・1周 400m×8コース ・全天候舗装、インフィールド:天然芝
	観客	・メインスタンド 1,014 席、芝スタンド 2,500 人収容
	付帯	・救護室、シャワー室、会議室、多目的スペース
平和の森球場	仕様	・両翼 95m、中堅 120m ・内野:黒土クレー舗装、外野:天然芝
	観客	・内野スタンド 3,000 席、外野スタンド 2,800 席
	付帯	・ウェットトレーニング室
運動広場	仕様	・ソフトボール 4 面、野球 2 面、サッカー 可能
多目的広場	仕様	・ソフトボール 2 面、野球 1 面、サッカー 可能



運動広場内、UDシート付多目的トイレ



体育センター入口のスロープ



平和の森球場観戦席スロープ



陸上競技場観戦席スロープ



陸上競技場内会議室

**(7) 恩納村赤間多目的運動場、赤間総合運動公園(恩納村)**

主な施設	施設概要	
赤間多目的運動場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナ 48m×59.5m(高密度人工芝)</li> <li>・9人制バレーボール4名、ゲートボール6面、硬式テニス2面、フットサル2面、ドッジボール(小中用)2面・(高大用)1面 可能</li> <li>・ジョギングコース1周 207m×幅 1.5m(ゴムチップ舗装)</li> <li>・ジョギング、ウォーキング 可能</li> </ul>
	付帯	・研修室、トイレ、シャワー室、更衣室
ONNA 赤間ボールパーク	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両翼 100m、中堅 122m</li> <li>・内野(混合黒土)、外野(天然芝(ティフトン))</li> <li>・夜間照明、電光掲示板、放送施設</li> </ul>
	観客	・3,000人収容可能
	付帯	・会議室、救護室、選手控室等
サブグラウンド	仕様	・中堅 70m、ソフトボール可能
サッカー場	仕様	・アリーナ 80m×100m、天然芝 1面



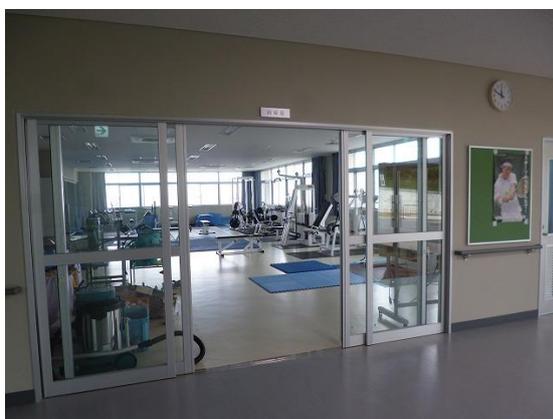
多目的運動場外観



オストメイト、ベビーベッドつきトイレ(多目的)



車いす対応シャワー(多目的)



無段差のトレーニングルーム(多目的)



触地図(多目的)



簡易オストメイト(ボールパーク)



会議室(ボールパーク)



ロッカールーム(ボールパーク)



観客席向けスロープ(ボールパーク)



車いす観戦席(ボールパーク)

**(8) 宜野座村総合運動公園(宜野座村)**

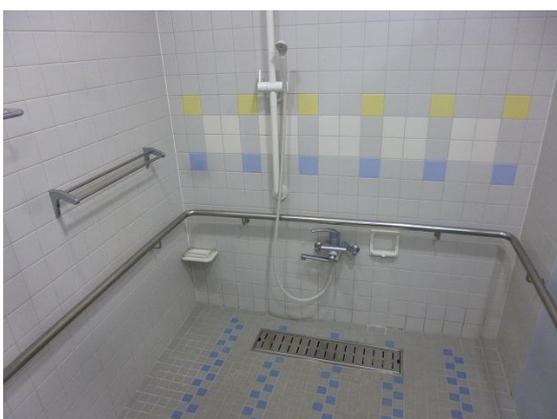
主な施設	施設概要	
宜野座村野球場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両翼 98m、中堅 122m</li> <li>・内野(クレー舗装)、外野(天然芝)</li> <li>・夜間照明、電光掲示板、放送施設</li> </ul>
	付帯	・シャワールーム、ロッカールーム、会議室、医務室
宜野座村総合グラウンド	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・400mトラック×8 レーン</li> <li>・ソフトボール場×2 面</li> </ul>
宜野座ドーム	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4,893 平方 m、全面人工芝</li> <li>・ゲートボール×6 面、フットサル×2 面 可能</li> </ul>
	付帯	・シャワールーム、ロッカールーム



宜野座ドーム入口



宜野座ドーム内多目的トイレ



宜野座ドーム内シャワールーム



手すりの点字案内(宜野座野球場)

**(9) 21世紀の森体育館(名護市)**

主な施設	施設概要	
21世紀の森体育館	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナ:6人制バレーボール4面、9人制バレーボール3面、バスケットコート3面、バドミントンコート12面、卓球6台 可能</li> <li>・大集会場:6人制バレーボール1面、9人制バレーボール1面、バスケットコート1面、バドミントンコート3面 可能</li> </ul>
	付帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョギングロード、トレーニングルーム、会議室、ミーティングルーム、医務室、シャワールーム</li> </ul>
名護市陸上競技場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・400mトラック×8コース</li> </ul>



体育館入口



体育館内車いす対応トイレ



体育館内アリーナ



陸上競技場内車いす対応トイレ

**(10)今帰仁村総合運動公園(今帰仁村)**

主な施設	施設概要	
村民運動場	仕様	・全天候型 450mトラック×5 レーン、直走路 100m×5 レーン ・走幅跳(助走路全天候型タータン舗装) ・ホッケー場 1 面、サッカー1 面
	観客	・メインスタンド 800 席、盛土席 1,500 席
サブグラウンド	仕様	・面積 15,000 平方 m ・軟式野球 1 面、ソフトボール 2 面可能
テニスコート	仕様	・軟式用 2 面、硬式用 2 面 ・全面クレイ舗装
	観客	・盛土スタンドあり
村民体育館	仕様	・バレーボール 2 面、バスケットボール 2 面、バドミントン 6 面、 テニス 2 面、ユニホック 2 面、フットサル 1 面 可能
	観客	・固定観客席 150 席
	付帯	・トレーニングルーム、会議室、更衣室、シャワー室
村民プール	仕様	・25m×16m(8 コース) ・温水プール ※調査時はボイラー故障で臨時閉館中
クラブハウス	仕様	・宿泊利用可能な研修室(49 畳)×2 部屋
	付帯	・厨房、浴室



村民体育館



村民体育館トレーニングルーム



体育館シャワールーム、段差はあるが幅は広い



体育館内会議室



体育館内車いす対応トイレ



村民プール



クラブハウス内浴室、段差はない



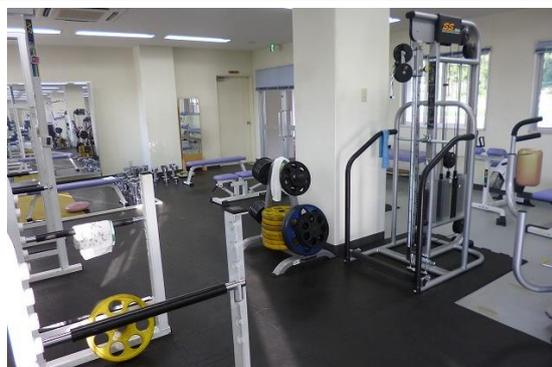
運動場観戦席、スロープはあるが幅員が一部狭い

(11)くいなエコ・スポレク公園(国頭村)

主な施設	施設概要	
国頭陸上競技場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全天候型 400mトラック×8 レーン(第3種公認)</li> <li>・障害物競走路 3,000m</li> <li>・ジョギングコース(延長天然芝 1km×幅 3m)</li> <li>・トラック、助走路、アウトフィールド:トップコート(T&amp;F 舗装材)</li> <li>・インフィールド:天然芝(ティフトン)</li> <li>・スピード体感走路(100m、傾斜 3.49 度)</li> </ul>
	観客	・メインスタンド 780 席、芝生席 3000 席
	付帯	・トレーニングルーム、シャワールーム
くにながみ球場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両翼 100m、中堅 122m</li> <li>・内野(混合黒土)、外野(天然芝(ティフトン))</li> <li>・夜間照明、電光掲示板、放送施設</li> </ul>
	観客	・メインスタンド 650 席、芝生席 2,350 席
	付帯	・屋根付ブルペン(バッティング練習場兼用)、シャワールーム
ふれあい広場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両翼 80m、中堅 90m</li> <li>・内野(混合黒土)、外野(天然芝(ティフトン))</li> <li>・夜間照明、ダッグアウト</li> </ul>
シーサイドテニスコート	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オムニコート 4 面、うちナイター対応 2 面</li> <li>・練習コート、練習壁(高さ 3m×幅 10m)</li> <li>・硬式テニス、軟式テニス対応</li> </ul>
	観客	・スタンド 200 席
くにながみ屋内運動場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナ:44.6m×44.6m</li> <li>・床:人工芝</li> <li>・グラウンドゴルフ、ゲートボール、フットサル、テニス、野球練習等に対応</li> </ul>
	付帯	・更衣室等



陸上競技場内車いすトイレ



陸上競技場トレーニングルーム



陸上競技場外観



陸上競技場観客席へのスロープ



陸上競技場全景



陸上競技場観客席車いすトイレ



くにがみ球場車いす観戦席(電源付)



テニスコート

**(12)久米島町総合運動公園(久米島町)**

主な施設	施設概要	
ホタルドーム	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールド床面積 3,540 平方 m、人工芝面積 3,080 平方 m</li> <li>・フットサル 2 面、ゲートボール 4 面、テニスコート 3 面、野球・ソフトボール 1 面、バレーボール 3 面、バスケットボール 2 面、バドミントン 3 面、ハンドボール 2 面 可能</li> <li>・ジョギングコース 1 周 220m</li> </ul>
	付帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニングルーム、シャワールーム、更衣室、医務室兼会議室</li> </ul>
多目的広場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面積 13,520 平方 m</li> <li>・サッカー場 1 面、ソフトボール 2 面、グラウンドゴルフ 可能</li> <li>・200m レーンあり</li> </ul>
久米島野球場	仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両翼 100m、中堅 122m</li> </ul>



ホタルドーム入口



ホタルドーム内多目的トイレ



ホタルドーム会議室



久米島野球場観戦席へのスロープ

**(13)宮古島市陸上競技場周辺(宮古島市)**

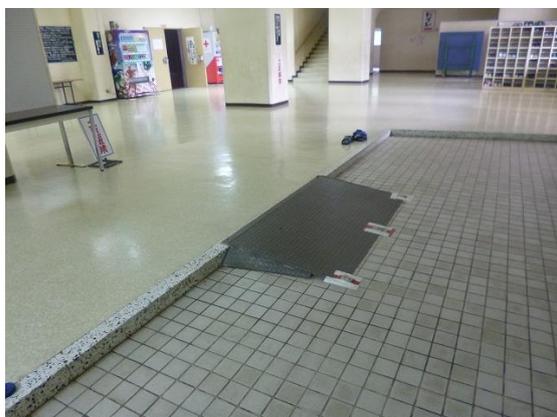
主な施設	施設概要	
陸上競技場	仕様	・全天候型 400mトラック×8レーン(第3種公認) ・インフィールド:芝
	観客	・メインスタンド 750 席、芝スタンド 7,000 席
	付帯	・シャワールーム、会議室、放送室 ・屋内練習場(50m)
総合体育館	仕様	・バレーボール 3 面、バスケットボール 2 面、バドミントン 8 面、 公式テニス 2 面、ハンドボール 1 面 可能 ・インフィールド:芝
	付帯	・シャワールーム、更衣室
市営球場	仕様	・両翼 97.6m、中堅 122m ・内野(クレイ舗装)、外野(天然芝)
	付帯	・シャワールーム、ロッカールーム



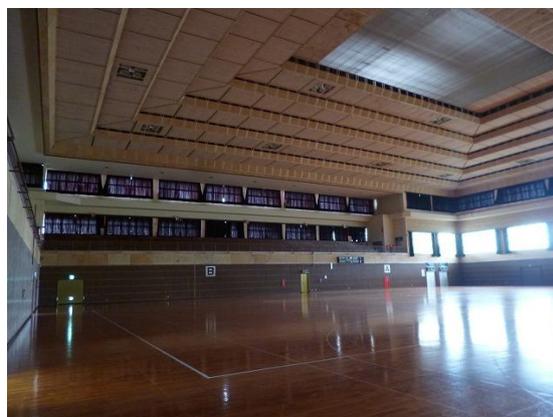
総合体育館全景



総合体育館入口スロープ



総合体育館玄関三和土



総合体育館内



総合体育館車いす対応トイレ



陸上競技場入口



陸上競技場観戦席アプローチ



陸上競技場車いす観戦席



陸上競技場内触地図



陸上競技場内会議室

**(14)石垣市総合体育館、石垣市中央運動公園、サッカーパークあかかんま(石垣市)**

**(14)-1:石垣市総合体育館**

主な施設	施設概要	
メインアリーナ	仕様	・バスケットボール2面、バレーボールコート2面、バドミントンコート8面、ハンドボールコート1面、テニスコート2面、卓球台12面 可能
	観客	・固定観客席 850 席、車いす 8 席
	付帯	・トレーニングルーム、シャワールーム、更衣室、会議室
ランニングコース	仕様	・一周 185m
第二多目的広場	仕様	・両翼 95m、中堅 120m ・内野(黒土混合土)、外野(天然芝) ・野球、ソフトボール×1 面 可能
サブアリーナ	仕様	・競技施設面積 1,220 平方 m
武道場	仕様	・柔道場 1 面、剣道・空手 1 面 可能



メインアリーナ



武道場



施設内のトイレ。電動により昇降する便座。



地上～2階を結ぶ長大なスロープ

(14)-2:石垣市中央運動公園

主な施設	施設概要	
市営陸上競技場	仕様	・全天候型ウレタン舗装、400mトラック×8レーン(第3種公認)
市営球場	仕様	・両翼 99.5m、中堅 122m ・内野(クレー舗装)、外野(天然芝)
	観客	・メインスタンド 320 席、内外野スタンド 7,560 席
第二多目的広場	仕様	・両翼 95m、中堅 122m
市営庭球場	仕様	・アンツーカー舗装
市営相撲場	仕様	・屋根付き



球場の観客席に至るスロープ



球場観客席の車いすエリア



球場観客席内の多目的トイレ



庭球場周囲の通路は段差が埋められている



陸上競技場内の車いすトイレはやや老朽化



屋外公衆トイレは蛇口が取り外されている

(14)-3: サッカーパークあかま

主な施設	施設概要	
グラウンド	仕様	・メイングラウンド: 105m×68m×1 面(天然芝) ・サブグラウンド: 105m×68m×2 面(天然芝)
	観客	・観客席あり
クラブハウス	付帯	・トレーニングルーム、トレーナールーム、カフェ、ロッカールーム、多目的ルーム、クラブチームルーム
フットサルアリーナ	仕様	・40m×20m、サーフェスは人工芝



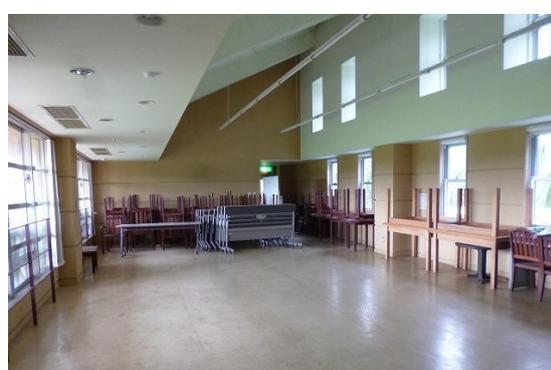
クラブハウス入口



グラウンドからクラブハウスへの入口



グラウンド



多目的ルーム



車いすトイレ



ロッカールーム

## 4.障がい者スポーツモニター合宿

本業務では、沖縄県内、特に運動施設における障がい者スポーツの受け入れ状況を把握するため、県外障がい者スポーツチームを対象にモニター合宿を募った。最終的に、車いす陸上チーム、車いすアーチェリーチームが合宿を実施している。

モニター合宿の状況について、本章にまとめた。※本事業とは関係なく、大会や練習で沖縄を訪れた選手にも話を聞く機会があり、それらについても本章にまとめた。

### 4.1 モニター募集概要

モニターの募集は、Web サイト上で行った。概要を図 17、18 に示す。



図 17 当法人 Web サイトトップページの状況(部分)

ユニバーサルな社会を目指して...

 **NPO法人  
バリアフリーネットワーク会議**

TEL. 098-929-1140  
〒904-0011 沖縄県沖縄市照屋1-14-14

[トップ](#)
[BFN会議とは](#)
[今年の活動](#)
[過去の活動](#)
[よくある質問](#)
[組織概要](#)
[募集情報](#)
[お問い合わせ](#)

## 募集情報

沖縄県内で合宿していただける、障がい者スポーツチームを募集しています。

障がい者スポーツチームの皆さま、沖縄で合宿しませんか！

当法人は本年度、沖縄県事業「誰にでもやさしい観光地づくり形成事業」（[概要はこちら](#)）を受託しました。この事業では、

- ・沖縄県内のスポーツ施設がバリアフリー対応をしているか？
- ・沖縄県内で障がい者スポーツチームが合宿をする場合、どのような課題があるか？

などを把握したいと考えています。そのため、沖縄県内で合宿していただける障がい者スポーツチームを募集しています。ご協力いただいたチームには、旅費を補助いたします。

普段、沖縄県内で合宿されているチームでも構いません。「沖縄で合宿してみたいけど、どの施設が対応しているかわからない」「バリアフリー対応のホテルは？」「移動手段は？」など、不明な点があればぜひお問い合わせください。[当法人ツアーセンター](#)にて、合宿旅行の手配も承ります。

募集概要は、以下の通りです。

チームに関する要件

■ 活動概要	沖縄県外を拠点に活動する障がい者スポーツチームであること
■ 募集チーム数	2チーム
■ 競技種目	以下のいずれかのスポーツのチームを対象とします。1つのチームで、複数の競技を行っている団体でも構いません。 アーチェリー、ウィルチエラグビー、車いすフェンシング、車いすテニス、車いすバスケットボール、ゴールボール、視覚障がい者5人制サッカー、脳性麻痺7人制サッカー、シッティングバレーボール、自転車競技、柔道、水泳、セーリング、卓球、射撃、馬術、パワーリフティング、ボート、ボッチャ、陸上競技
■ チーム構成人数	3名以上

その他

■ モニターにお願いすること	滞在中の1時間程度を使って、アンケートを行います。また、合宿風景を随時、撮影（簡単な質疑も含む）いたします。詳しくは、 <a href="#">モニター規約</a> (PDF)をご確認ください。
■ 補助額	チームの構成人数、合宿日程によらず、1チーム10万円を補助します。
■ 受付期間	EメールまたはFAXにて、所定の申込書類を11月30日(土)までに送付ください。郵送の場合は、30日(土)付の消印有効です。
■ 合宿実施期間	2014年1月31日までに実施される合宿が対象です。
■ 申し込み方法	申込書に必要事項を記入の上、Eメール、FAXまたは郵送でお申し込みください。その際、 ・チームの活動概要がわかる資料(様式は自由です) ・モニター構成メンバー名簿 ( <a href="#">PDF版</a> <a href="#">WORD版</a> ) も添付してください。選考の資料とします。  送付先 Eメールの場合：jimukyoku@barifuri-okinawa.org FAXの場合：098-929-1143 郵送の場合：〒904-0011 沖縄市照屋1-14-14  申込書 → <a href="#">PDF版</a> <a href="#">EXCEL版</a>
■ 選考結果の通知	選考の結果は、2013年12月6日(金)までにご連絡いたします。

本手続きを通じて知りえた個人情報、本事業のためにのみ用い、外部への流出などがないように厳重に管理いたします。

[このページの先頭へ](#)

### 編集・出版

 [アクセス](#)

### リンク

 [放課後等デイサービス  
児童発達支援  
認可外保育園](#)

 [那覇空港  
しょうがい者・こわい者  
観光案内所](#)

 [食の  
バリアフリー  
研究所](#)

 [バリアフリー  
観光バス  
そら観光](#)

### バリアフリーネットワーク会議

〒904-0011  
沖縄県沖縄市照屋1-14-14 (2F)  
TEL 098-929-1140  
FAX 098-929-1143

図 18 モニター募集ページ(部分)

## 4.2 モニター1:チームブルータグ(車いす陸上)

### (1) チーム概要

表 15 チームブルータグ概要

メンバー	性別	年齢	競技歴	最近の戦歴
渡辺 勝	男	22歳	2年	第5回つわぶき車いすマラソン大会 優勝 第25回ぎのわん車いすマラソン大会 優勝
村上 清加	女	30歳	3年	元200メートル日本記録保持者
松本 直幸	男	34歳	7年	第24回全国車いす駅伝競走大会 優勝
荻原 孝俊	男	38歳	(コーチ兼トレーナー)	



図 19 集合写真(ブルータグ以外の人々も混ざっている)

### (2) 来沖スケジュール

表 16 合宿日程

日	内容	宿泊
12月29日(日)	午後:那覇空港着	ホテルルートイン那覇泊港(2名) ホテル東急ビズフォート那覇(2名)
12月30日(月)	練習 於 浦添市 陸上競技場	
12月31日(火)		
1月1日(水祝)		
1月2日(木)		
1月3日(金)		
1月4日(土)	夜:那覇空港発	-

### (3) 合宿概要



準備風景。トラック脇の空きスペース(サッカーゴールの保管スペース)に荷物を持ち込み、競技用車いすの組み立て、移動用車いすから競技用車いすへの乗り換え、準備運動など、全ての準備を行った。

競技場まで乗ってきたレンタカーを駐車場に止め、そこから荷物をもって移動したが、施設内は許可をもらえばトラックのすぐ脇まで車両の進入が可能だったことが後にわかった。車いす利用者は特に、移動距離の長短は重要な問題であり、適切な情報提供が望まれる。(図 20、○部分に車を止め、○部分に荷物を運んだが、○部分までは車乗り入れ可能。距離 300メートル弱、高低差 15メートル弱の移動をするかしないかは大きい。)



図 20 駐車場と準備場所の位置関係(浦添市 Web サイト内の地図に加筆)



マッサージ風景。右はたまたま同時に練習していた、他の車いす陸上チーム(本年度ぎのわん車いすマラソンで2位だった選手他)。ブルータグはトラック周辺のフィールド上に直接マットを敷いて、他チームでは観客席下の半屋外スペースのタイルの上で、ボディケアを行っていた。当日は雨が降ったりやんだりする天候で、気温も肌寒かった。自由に利用できる屋内のスペースがあれば、より快適にリラックスしてケアできるものと思われる。



装具の話や、練習メニューの打ち合わせも、露天でそのまま行っている。夏の太陽や冬の風、季節を問わず雨をしのげる設備があれば好ましい。





陸上と一口に言っても、種目は人それぞれ異なるし、障がいの程度も異なる。同じ種目を協議する人でも、当日のメニューは選手ごとに異なる。そのような多様なニーズに対応できるだけの、ハード、ソフト両面の整備が望まれる。(例、表 17)

※現在、沖縄県には県内在住の義足のランナーがおらず、義足の選手への対応は不十分である可能性がある。

※宜野湾市にある宜野湾海浜公園は、毎週金曜日の午後は1、2レーンを車いす選手に開放している。

表 17 クラス分けの例(第 33 回大分国際車いすマラソン大会)

T51	<ul style="list-style-type: none"> <li>選手は通常肘関節屈曲と手関節背屈の筋力グレード5で、肩関節の筋力で特に大胸筋に筋力低下がみられる。かつ上腕三頭筋の筋力はグレード0~3である。通常、体幹の筋力はない。駆動する為に肘関節屈曲と手関節背屈筋を使う。顎の下に膝がくるよう鉛直位に座る。通常小径のハンドリムである。脊髄損傷(完全麻痺)の神経残存レベル C5-6 レベルと同等の活動制限がある。</li> </ul>
T33	<ul style="list-style-type: none"> <li>四肢麻痺、三肢麻痺、重度の片麻痺 - 中等度(非対称性または対称性)の四肢麻痺または左右で比べると機能が良い側の upper limb にほぼ完全な機能を持つ車椅子使用の重度の片麻痺。選手が主として左右で比べると機能が良い側の upper limb にほぼ完全な機能を持つ片麻痺か三肢麻痺を呈しない限り、アテトーゼ型の選手がこのクラスに該当することは稀である。車いす駆動は自立している。</li> <li>上肢一伸展とフォロースルーに制限を示す軽症側の腕の痙攣グレード2の中等度制限がある。左右で比べると機能が良い側の手が円筒握りと球握りを示すことがある。</li> <li>体幹コントローラー車いすを駆動する際に、まずまずの体幹コントロールが示されるが、力強く駆動する間、前方への体幹運動は伸展痙攣によってしばしば制限される。痙攣グレード2</li> <li>下肢一痙攣グレード3~4。いくつかの明らかな機能は、トランスファー時観察することができる。介助または歩行補助具を使用し歩行が可能であるかもしれないが、短距離のみである。</li> <li>T33とT34を識別するためには、車いす駆動時の体幹運動と手の機能が重要である。もしも選手が調整動作の際にすばやい体幹運動を行うのに非常に乏しい能力を示したり、上肢重量の著しい非対称性や前方への加速を妨げる握りとリリースがある場合は、T33とする。車いすを駆動する際に片上肢のみ使用する選手は、ロングストロークや素早い握り、リリース動作を行っていても、T33とする。</li> </ul>

T52	<p>•このクラスの選手は通常、正常な肩・肘・手関節の筋力と手指の伸展筋と屈曲筋に手内筋の委縮を伴いながら著減から正常な筋力(筋力グレード2~5)を持つ。推進力には肩関節・肘関節・手関節を用いる。通常、体幹筋力は機能しない。T53、T54のクラスと同じようなグローブテクニックを用いる場合もある。脊髄損傷(完全麻痺)の神経残存レベルC7-8の完全麻痺と同等の活動制限がある。</p>
T34	<p>•<b>両麻痺</b>—中等度から重度の関与。最小限の制限を持つ良好な機能的な強さやコントロールの問題が上肢と体幹にみられる。</p> <p>•<b>上肢</b>—上肢は、しばしば正常な機能的強さを示す。関節可動域の最小限の制限があるかもしれないが、正常なフォロースルーに近く、投てきまたは車椅子駆動時に推進力が観察される。手の機能は正常な円筒状や球状の対立運動と物をつかむのに適した握りが、すべてのスポーツにおいて見られる。制限があるとすれば、通常すばやく細かい運動の間のみ確認される。両麻痺は上肢よりも下肢の方がより強い痙攣があるということを含むことを覚えておくべきである。痙攣グレード1~2の若干の関与が、特に手、腕、体幹の機能的動作時に見受けられる。</p> <p>•<b>体幹</b>—痙攣グレード1~2。車いす駆動時の体幹動作時に最小の制限がある。一部の選手において疲労により痙攣が増強することもあるが、適切なポジショニングで克服することができる。立位時のバランス能力に乏しいことは、補助具を使用していることから明白である。</p> <p>•<b>下肢</b>—両下肢ともに痙攣グレード3~4の中等度から重度な関与が、通常補助具を使用せずに長距離以上の歩行に機能しない両下肢であることを示す。</p> <p>•<b>車いすの駆動時</b>に選手は、長く力強い駆動と素早い把持とリリースが可能であるが、手の細かい動きが影響を受けるかもしれない。駆動している間、これらの細かい動きは必須ではない。前方および後方への力強い体幹運動は、上肢のストロークをサポートしている。もしも、これらの体幹運動が起らない場合は、体幹のバランスが取れており、上肢運動のために安定性を提供している。車いすがカーブを走行する時、体幹のバランスを崩すことはない。</p>
T53	<p>•このクラスの選手は、正常な上肢筋力を持ち、臍筋と下部の背筋は機能しない。体幹を水平に横たえることを含む臍筋の機能を補うために様々なテクニックを用いる。一般的に加速を起こす際には、体幹を下方に保持しておくための臍筋の筋力不足のため体幹が下肢から起き上がる;駆動中、下方への自動的な体幹の運動はみられない。大抵の場合、代償機能を調整するために駆動サイクルは制限される。脊髄損傷(完全麻痺)の神経残存レベルT1-7と同等の活動制限がある。</p>
T54	<p>•このクラスの選手は、正常な上肢筋力を持ち、体幹をコントロールする能力は部分的なものから正常までの幅を持っている。このグループの選手の中には有効な下肢の筋力を持っている選手もいることがある。ハンドリムに推進力が加えられた時に、体幹を下方に保持するための適度から正常な体幹コントロールを持つ。通常、補助器を調整するために駆動時のサイクルを中断することはない。</p>

#### (4) ヒアリング

チームブルータグ一行へのヒアリング状況を以下に示す。「(コ)」は、コーチ兼トレーナーから寄せられた意見を示す。重複する意見は統合するなど、適宜編集している。

来沖回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月のぎのわん車いすマラソンに次いで3回目。1回は旅行。</li> <li>・高校時の初来沖以来、大会に3回出場した。今回は4回目。</li> <li>・(コ)3回目。前回は健常者のサッカーチームに帯同した。</li> <li>・4～5回来ているが、練習では初めて。</li> </ul>
------	---

…既に複数回来沖しており、「沖縄」と「(障がい者)スポーツ」が一定程度リンクしていることがうかがえる。

来沖企図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄側の障がい者スポーツ受け入れ推進団体に手配を依頼。「年末年始」に「九州」で合宿できる施設を探していた。</li> <li>・来年のアジア大会(韓国仁川市、9～10月開催)に向け、冬から合宿したかった。</li> </ul>
------	---

…冬にスポーツができる、沖縄の利点が活用されている。

宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリールームをWebで予約した。</li> <li>・ネットで調べて電話予約した。</li> <li>・バリアフリールームがなくても、シャワーキャリーがあれば大丈夫。</li> <li>・施設は価格と清潔さ(練習の疲れが取れやすい)を重視して決める。</li> <li>・大会の際は、招待選手として主催者側が手配した宿泊施設に迎えられることもある。</li> </ul>
------	--

…バリアフリールームに泊まっている選手もいるが、バリアフリー対応の有無以外の観点を重視する選手もいる。

旅行形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空券、ホテルを別々に手配した。</li> <li>・東京在住で、他のメンバーと合流のため福岡経由で来沖した。</li> </ul>
------	--

…個人旅行できた選手、飛行機の乗り継ぎを伴う行程で来た選手がいる。

移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レンタカーを利用。通常はレンタカー店での貸渡したが、空港に配車してくれた。</li> <li>・レンタカーを利用。特に不便は感じない。</li> </ul>
------	--

…移動手段には健常者と同様に、レンタカーが活用されている。

予算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8万円。航空券代、宿泊代、食事代など。</li> <li>・15万円ほど。合宿の使途で10万円。</li> </ul>
----	---

…予算も人により大きく異なっていることがうかがえる。

<b>準備対応</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気、気温は来沖前に確認。</li> <li>・タイヤの予備を持参してきている</li> <li>・(コ)普段は最寄り病院の確認が大変。</li> </ul>
-------------	---

…器具の補修や体調の変化、けが等への対応などに気を配っていることがうかがえる。

<b>普段</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の練習時間は2時間が基本。週に1～2日は、終日練習する。</li> <li>・空き競技場で練習している。</li> <li>・夏場は練習後にシャワーを利用するが、椅子がないことも多い。</li> </ul>
-----------	---

…普段の練習環境は、必ずしもバリアフリー整備が進んでいるとも言い切れない。

<b>遠征</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強化合宿で東京に行った。</li> <li>・1月中旬からオーストラリアに出発。最終目標はアジア大会。</li> <li>・埼玉県で練習、長野県菅平高原で合宿することもある。移動手段は車やバスなど。</li> </ul>
-----------	--

…健常者の遠征や合宿と同じように、地域的な制約はなく、あちこちに出かけている。

<b>意見感想 競技施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦添陸上競技場は人も少なく使いやすい。</li> <li>・(コ)競技場を開放しているのは素晴らしい。</li> <li>・トイレのボロさや暗さは、実害はないが、扉が重いのに閉口した。</li> <li>・人が少なく素晴らしい。地元の練習場は人が多く、ぶつかることもある。</li> <li>・この競技場は駐車場とトラック入口が遠く、荷物の運搬が大変。練習以外の要因で疲れることは避けたい。</li> <li>・身障者用の駐車場が、入口の近くにあればよい。</li> </ul>
----------------------	---

…浦添市運動公園に対して、長短両面が指摘されている。しかし、長所とされている人の少なさは、必ずしも施設側の努力によるとは言えない。一方、駐車場については、実際には近くまでアクセスできることが周知されていない。トイレも軽微な不具合であり、対応を求めたい。

<b>意見感想 その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬場は気候的に沖縄が理想的な練習地。</li> <li>・一般的に、年末年始に利用できる施設が少ない。</li> <li>・レンタカーは、ハンドギアタイプであれば扱いやすい。</li> <li>・ホテルの予約が間違っていた。喫煙/禁煙の違いや、額も違っていた。</li> <li>・(コ)普段は氷の確保が大変。ホテルでもらえる量にも限りがある。アイシングや水分補給用の氷を簡単に得られればありがたい。</li> <li>・(コ)1日500円程度での、クーラーボックスの貸出があればありがたい。グアムのレオパレスは対応している。</li> </ul>
---------------------	--

…レンタカーや宿泊施設に対する意見は、スポーツに限らず観光面にも共通な視点である。氷やクーラーボックスは健康面にも直結する問題であり、このような細やかな手配の積み重ねが、ホスピタリティあふれるスポーツコンベンションにつながるものと考えられる。



(参考)図 21 陸上競技場併設のトイレ。車いす用も設けられてはいるが、ドアが重い、鏡が外れているなど、快適に使えるとは言い難い。

### 4.3 モニター2:福岡県身体障害者アーチェリー協会(車いすアーチェリー)

#### (1) チーム概要

表 18 福岡県身体障害者アーチェリー協会概要

メンバー	性別	年齢	競技歴	最近の戦歴
篠原 彩	女	31 歳	3 年	第 13 回全国障害者スポーツ大会女子コンパウンド 30m ダブルラウンド 優勝
南里 伸一郎	男	34 歳	15 年	第 53 回福岡県民体育大会リカーブ 2 位
南里 陽子	女	30 歳	4 年	
木下 浩介	男	44 歳	5 年	第 9 回福岡県身障アーチェリーシングル記録会コンパウンド男子 8 位



図 22 集合写真(メンバー以外の人々も混ざっている)

#### (2) 来沖スケジュール

表 19 合宿日程

日	内容	宿泊
1 月 17 日(金)	夕方:那覇空港着	ダイワロイネットホテル那覇おもろまち(3 名)、東横 INN 那覇新都心おもろまち(1 名)
1 月 18 日(土)	練習 於 鏡が丘特別支援学校	
1 月 19 日(日)	同上および半日観光、夜:那覇空港発	—

### (3) 合宿概要



(左)那覇空港到着後、当法人ツアーセンターに立ち寄り打ち合わせ。

(右)準備風景。アーチェリー用具は専用ケースも含めると一式で 10kg 以上の重量がある。今回の合宿では各選手の自宅～宿泊施設間は別途郵送し、宿泊施設～競技施設間はレンタカーに積み込んでの移動となった。



練習風景。今回の合宿場所は、特別支援学校の校庭に併設された射場を使用した。丘の上に位置するため、風が常時強めに吹く環境だが、風への対応も上達に必須な要素ということで、練習になったという声が聞かれた。

写真には、福岡県身障者アーチェリー協会のメンバーと、現地の受け入れのサポートをしていた沖縄県アーチェリー協会のメンバーが写っている。アーチェリーは障がい者と健常者が一緒に競技できるため、施設選択の制約も少なく、受け入れも比較的容易なスポーツであると思われる。



アーチェリーは、最低でも 30m 以上の空間を必要とするが、射場と的の間の空間に特に制約はなく、どのような施設にも展開しやすい。

(左)最低限、射場と的の間を移動できる通路部分のみ、固い路面舗装が施されていれば車いすの選手もスムーズに利用できる。

(右)他目的の競技場を射場に転用している例。石垣市にある「サッカーパークあかんま」は、サッカーフィールド 3 面を備え、Jリーグチームの合宿にも利用される本格的な施設だが、毎年、日本体育大学アーチェリー部の合宿を受け入れている。サッカーフィールドを射場とし、仮設防矢ネットを設置している。(写真は同部の公式ブログから引用)



(左)練習途中でのミーティング、技術面の意見交換の様子。本施設は特別支援学校付帯の設備であり、路面が全面的にフラットに整備されている点以外は、(吹きさらしであるなど)素朴な施設である。但し、沖縄県内に常設のアーチェリー場がほかにないことを考えると、健常者を含む多様な人々の利用に配慮されていればなおよいと言える。

(右)練習終了後、福岡チームが呼び掛けて、福岡、沖縄両チームの交流会が現地で開催された。遠出をせず、普段通い慣れた施設で練習を続ければ効率は良いが、慣れない土地で知らない人たちと交流することで、新たな技術や用具の知識、ノウハウを得ることができる。常時吹き付ける風という悪条件も、トップアスリートに必要な、どのような条件下でも平常心で競技できるようになるための得難い経験だったとの声があった。



施設のトイレの様子。一般的な車いす用トイレのほか、車いすトイレ内に1基、そのほかに1基、計2基のシャワーが設けられている。

#### (4) ヒアリング

福岡県身障者アーチェリー協会一行へのヒアリング状況を以下に示す。重複する意見は統合するなど、適宜編集している。

<b>来沖回数</b>	初めて来沖した方...2名、2度目の来沖...2名。
-------------	----------------------------

…来沖経験が少ない方で構成されていた。

<b>バリアフリー整備状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空港内、ホテル内、競技場といった、個別の施設内は良くバリアフリー整備されているように感じた。一方で、街中での移動については、段差、勾配等全般的に不満が残る。</li> <li>・近隣店舗への移動時、歩道→横断歩道→歩道ごとに段差、傾斜がどちらもきつい印象を受けました。</li> <li>・道路と歩道の高低差、傾斜の急具合が気になる。歩道のレンガの凹凸が目立った。</li> </ul>
-------------------	---

…競技施設については、特に不満などは出ていない。むしろ、各施設間をつなぐ空間(街なかなど)の整備を求める声が上がっている。

<b>宿泊施設</b>	・宿泊施設はバリアフリールームだったのですが、細かな配慮(車いす利用者に向けた)があり、快適に過ごすことができました。
-------------	---

…バリアフリールームが手配出来たこともあるかもしれないが、合宿参加者からは特に不満の声は聞かれなかった。

<b>旅行形態</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル、航空券がセットになったパックを利用した。</li> <li>・ホテルと飛行機を別々に手配した。</li> </ul>
-------------	--

<b>移動手段</b>	・全員でレンタカー(一般車両)を手配、移動した。
-------------	--------------------------

<b>予算</b>	・飛行機、宿泊、基本的な食事代(A)、個人的な飲食、お土産代など(B)として、「A=5万円、B=5000円」「A=5万円、B=1万円」「A=8万円、B=5000円」など。
-----------	---

…予算は参加者により幅がある。

<b>準備対応</b>	・ホテルのバリアフリー情報や沖縄の身障スポーツ、観光などを Web と電話での問い合わせにより調べた。 ・ホテルまでの行き方、観光地などをインターネットで調べた。
-------------	--

…来沖経験の少ない参加者が多かったせいか、障がい者スポーツ全般のことや観光のことなど、直接アーチェリーに関連しない情報も収集している。

<b>意見感想 競技施設</b>	・アーチェリー場は身体障害者の団体が利用されていることもあり、足場もよく、お手洗いも使いやすかったです。
----------------------	--

…今回利用した施設は特別支援学校に併設されていることもあり、バリアフリー整備は行き届いていた、といった声が多かった。

<b>意見感想 その他</b>	・公共交通機関=ゆいレール内の車いすエリア等を充実させるべきでは。 ・歩道橋を渡りやすくしてはどうでしょう。車いすの人は上がりません。 ・「ビジネス」の面ではバリアフリーが進んでいるが、公共的な面ではもう少し頑張してほしい。
---------------------	--

…「バリアフリー整備状況」欄に記載したように、個々の施設を結ぶ、街なかの空間やモノレール(公共交通)などの整備を求める声があげられている。

#### 4.4 その他来沖選手等へのヒアリング

本事業では障がい者スポーツのモニター合宿を2件公募したが、普段より自発的に沖縄で練習や合宿を行う障がい者の方や、沖縄県内で開催される障がい者スポーツ大会に参加する方もある。そのような方たちにも可能な限り、お話を伺った。

##### (1) 車いすテニス全日本強化合宿

熊本県に事務局を置く日本車いすテニス協会では、選手強化・育成のため、2013年12月に沖縄県で強化合宿を行った。その際、参加選手やコーチ等にヒアリングを行った。

表 20 強化合宿概要

日	内容	宿泊
12月15日(日)	午後:那覇空港発	ホテル日航アリビラ
12月16日(月)	練習 於	
12月17日(火)	ホテル日航アリビラ	
12月18日(水)	うるま市石川コート	
12月19日(木)	午前:那覇空港着	
<b>陣容</b>		
コーチ	6名(うちフィットネスコーチ1名、エリアコーチ1名)	
強化選手	男子4名、女子3名、Quad3名	
育成選手	男子3名	
その他	トレーナー2名、スタッフ3名	

##### (ア) 合宿概要

強化合宿の概要を示す。



移動には、当法人所有の小型ノンステップ車両を利用した。



天候が不順だったため、午前、午後で屋外、屋内練習場を切り替えて練習した。



練習風景。



車いすテニス世界ランキング 1 位の国枝慎吾選手。2014 年全豪オープンシングルス優勝。

## (イ) 合宿概要

練習の休憩時間に、国枝選手のほかコーチ(蛭江コーチ)、スタッフ(塚本氏)にお話を伺った。概要を示す。

沖縄は	<ul style="list-style-type: none"><li>・1月の全豪オープンに出るにあたり、気候が似ているのが魅力で来た。</li><li>・気候が素晴らしい。北海道などでは、冬は練習できない。</li><li>・気候が温かいと体が動きやすく、故障もしにくい。</li><li>・受け入れ態勢も特に問題ないし、施設も充実していた。</li><li>・ホテル日航アリビラの対応も良かった。コートも練習に十分利用できた。</li></ul>
-----	--

…沖縄に対しては、温暖な気候といった所与の条件以外にも、練習で使用したコートや宿泊施設の対応など、全般的に高い評価をいただいている。

今回は1月の全豪オープン前の来沖だったが、冬季は県外でスポーツの練習をすることは難しい。冬季に国内外で開催される大会のプレ合宿実施地として、沖縄は優位である。

移動手段	<ul style="list-style-type: none"><li>・本州方面では基本的に鉄道で移動する。荷物もすべて持参する。</li><li>・沖縄は飛行機でしかアクセスできないのがネックだが、今回ぐらいの期間(4泊5日)合宿できるのであれば気にならない。(それより短いと、飛行機の利用で受けた体の負担から回復できない)</li></ul>
------	--

…事実上、飛行機でしか来訪できない沖縄県だが、飛行機利用による疲労は、4泊程度の日程の合宿であれば回避しうるとのことだった。

施設 練習環境	<ul style="list-style-type: none"><li>・複数のコートがあるとして、各コートともサーフェスは同じ方がいい。できればグランドスラムのコートと同じ材質が好ましい。</li><li>・屋外4面、インドア4面、計8面確保したい。今回の合宿の規模でも、少なくとも4面は使う。</li><li>・屋根は必ずしも重要ではなく、気候、風土に合った練習をすれば良い。</li><li>・コートと宿泊施設との距離は短いほどよい、理想としては一体化していることが望ましい。ブラジルやチェコにはそのような競技施設がある。</li><li>・オムニコートは日本で突出して普及しているが、世界に出る選手を育てるためにはハードコートが必要。</li><li>・雨天時、ラケットを使った練習はできないまでも、何らかの練習ができるような屋内施設も欲しい。(今回の合宿で雨天時にトレーニングした)読谷村の健康増進センターは充実していた。</li></ul>
------------	--

…練習環境、特にコートについては、必要な面数、サーフェスの適否等、技術的見地から多くの指摘が寄せられている。練習施設と宿泊施設の一体的な整備も検討したい。

<p>施設 トイレ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす用が男女別に少なくとも1基ずつあればよい。</li> <li>・コートからの距離が短ければよい。熊本市にある「浜線健康パーク」は良い例で、コートサイドにトイレが設置されている。</li> </ul>	 <p>図 23 浜線のトイレ位置図</p>
-------------------	--	--

…施設間の近さが重要なポイントであることが分かる。

<p>施設 周辺設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合宿時は、ラケットを使った練習が中心になるので、トレーニングマシンは必ずしも必要ではない。(そういう練習は各個人がしているはず。)</li> <li>・テニスの合宿ではあまり機材を使わないが、メディシンボール、厚めのストレッチマットレスを利用できればありがたい。褥瘡も防げる。</li> <li>・全般的に、バリアフリー対応のシャワールームが不足していると感じる。</li> <li>・装具の着脱がしやすいロッカールームがほしい。</li> <li>・選手は多少の段差なら乗り越えたりするが、Quadの選手は握力が強くないため、バリアフリーへの配慮は必要である。</li> </ul>
--------------------	--

…車いすテニスの合宿では、コート以外に必要な用具等は多くないとのことであるが、合宿で披露する体のケアや、練習後に利用するシャワールームなど、コートでの練習を支える周辺環境の整備も重要な要素である。

現場を熟知する選手、選手をサポートするコーチ、スタッフ等の声を反映させ、利用者目線での整備が望まれる。

<p>他団体 との 協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地の障がい者スポーツ団体との協働、障がい者スポーツ協会と理学療法士の連携を図ってほしい。</li> <li>・国内外を問わず、大会の際は、現地の理学療法士が選手をケアしてくれる。</li> <li>・福岡のジャパンオープン福岡は福岡の理学療法士がサポートしてくれる。広島も同様、国際大会などでも県単位で用意される。</li> </ul>
--------------------------	---

…安全な合宿実施に向けたサポートのため、理学療法士などとの協力体制の構築を指摘する声があった。

今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄の気候は車いすテニスに向いている。競技を普及させていきたい。</li> <li>・トップクラスやそれに準ずる選手のプレーを目の当たりにすることが、競技人口の増加につながるものと考えている。</li> <li>・車いすテニスの普及に向け、核になる方が必要だ。(琉球大学教授)高嶺豊先生などはどうか。(※高嶺教授は1987年、関東車いすテニス協会の初代会長を務めている)</li> <li>・競技人口拡大も狙い、毎年熊本でジュニアキャンプを開催している。1泊2日の日程で子供20人とその親が参加する。</li> </ul>
----	---

…沖縄県は現在、車いすテニスが普及しているわけではない。しかし、合宿環境が整えられ、トッププレーヤーが来沖するようになれば、障がい児童たちの耳目を引き、競技人口の底上げにもつながると思われる。障がい者スポーツの誘致が、ひいては沖縄県に暮らす障害者たちのモチベーションの増加にも資する可能性があると言える。

#### (ウ) 車いすテニスの第一人者、星義輝氏

12月の東京都障害者総合スポーツセンター視察時、星義輝氏にお会いし、若干のお話を伺った。星氏の略歴(表21)、ヒアリング内容を示す。

表21 星義輝氏(写真は当法人撮影、略歴は(株)ウェッジ Web サイトより)

	<p>1948年 福島県に生まれる。</p> <p>1965年 第1回「全国身体障害者スポーツ大会」出場(岐阜県開催)</p> <p>1976年 パラリンピックトロント大会出場、車椅子スラロームで金メダル</p> <p>1980年 パラリンピックアーネム大会出場</p> <p>1984年 ストック・マンデビル競技大会出場</p> <p>1988年 パラリンピックソウル大会出場 1990年 車椅子テニスに転向(世界ランキング最高位12位)</p> <p>2012年 「全国身体障害者スポーツ大会」47年ぶりの岐阜県大会に出場</p> <p>現在、東京都障害者総合スポーツセンターで車椅子テニススクールを開催</p>
---	--

- ・障がい者も健常者も、一緒にスポーツを楽しめばよいと思うが、障がい者は特別支援学校に入学してしまうと、以後ずっと障がい者に囲まれて過ごすことになる。障がい者と健常者がスポーツで交流できないことはもったいないと感じる。
- ・東京では、車いすテニスの練習場は週末に混む。高校生が多い。1人当たり、1時間に20分ぐらいしかボールに触れない。
- ・コートの手触りはハードがいい。有明テニスの森はハードコートなので良い。障害者総合スポーツセンターの素材はオムニとハードの間ぐらいの硬さ。
- ・現在はまだ致し方ない部分もあるが、海外でのプレーを見据えて、いずれは国際ルールにあった規格のコートを整備してほしい。
- ・全天候型のコートは、いつでも練習はできるとはいえ、風を計算に入れたりすることが身につかない。試合会場がオープンのところだと、対応できない。

## (2) 副島正純選手(車いすマラソン)個人合宿(石垣島)

車いすマラソンの第一人者、副島正純選手が、1～2月にかけて合宿を行った。合宿で地方に赴く場合、特に寒い時期の場合はモチベーションの維持が大変とのことだが、石垣は温暖な気候ゆえ、なじんでいるとのことだった。

合宿には奥様(有資格者)が同行され、練習に原付で同行し、アドバイスをしていた。宿泊先のホテルで伺ったお話の内容を示す。

表 22 副島正純選手(公式写真を拝受)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マラソン自己最速記録:1時間18分50秒</li> <li>・2004年より3大会連続パラリンピック出場</li> <li>・日本身体障害者陸上競技連盟 強化指定B選手</li> <li>・JTU パラトライアスロン 強化指定A選手</li> </ul> <p>*****</p> <p>1970年長崎県生まれ。車いすマラソン世界最速を狙う車いすアスリート。毎年6大メジャーマラソン大会を中心に多くのマラソン大会に出場。東京マラソン、ボストンマラソン、ベルリンマラソン、ニューヨークシティマラソンの優勝をはじめ好成績を残している。世界トップレベルの車いすアスリートとして活躍中。</p> <p><b>【2013年の主な戦績】</b> 東京マラソン、世界トライアスロンシリーズ横浜大会、ホノルルマラソン【優勝】、大分国際車いすマラソン【3位】、ニューヨークシティマラソン【4位】、パラトライアスロン世界選手権【10位】</p>
---	--

<b>宿泊</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイヤルマリンパレス。オーナーが障がい者に理解があり、心地よく滞在できる。レーサー車いすなど、安全に預かってもらえる。</li> <li>・糸満市にあるスポーツビレッジ。利用したことがあるが、よかった。</li> </ul>
-----------	--

…特定の宿泊施設において一定の由来があったことによって滞在地として選んでいる。

<b>練習環境</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長距離のアスリートはトラックはあまり使わない。</li> <li>・夏は北海道、深川市で合宿している。</li> <li>・練習コースまで、ホテルからすぐ行けるのが良い(目の前の道が練習コース)</li> <li>・観光に行くほどの余力はないし、練習がきちんとできれば、それでよい。</li> </ul>
-------------	--

…練習がスムーズに行える環境の良しあしを第一とする考えであることがうかがえる。

<b>移動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルがあった時の対応は A 航空会社が最も良い。と言っても、荷物が次の便できます...ということはある。</li> <li>・B 航空会社は、複数人数で乗る時の対応が好ましくない。</li> <li>・航空会社によって、キャパシティの差が大きい。ある会社では問題なく搭乗できても、別の会社ではタイヤの空気を抜いたり、いろいろ非現実的な指示が多い。</li> <li>・移動手段にはあまりこだわらない。それしかなければ、飛行機も選択肢。</li> <li>・手動装置付きのレンタカーが少ない。</li> </ul>
-----------	--

…移動手段に関して、車いすを利用する立場からの様々な意見があげられている。飛行機で来訪せざるを得ない沖縄県として、アクセスの課題に留意する必要があると思われる。

<b>サポート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士よりは、鍼灸師がほしい。理学療法士は必ずしも現場の選手のニーズに即した対応をしてくれるとは限らない。</li> <li>・テーピングよりトレーナーで鍼灸師の資格を持つ人がほしい。</li> <li>・PTは足のケアを担当する人が多い。ひじ、肩のケアは少ない。車いす利用者に対応できる PT が少ないのは、何とかしないとイケない。</li> <li>・エリート枠で協議に参加すると、ホスピタリティルーム、マッサージ師によるケア、いろいろ対応してもらえる。</li> <li>・ニューヨークマラソン、ボストンマラソン、ロンドンマラソンなんかだと、車いすグループごとに通訳が付く。ホスピタリティ。</li> <li>・工具は持ち歩いている。</li> <li>・随意に使えるバリアフリー対応のバスが少ない。移動手段は常に問題。</li> </ul>
-------------	--

…個々のアスリートに応じたサポートが必要であることがうかがえる。また、一定の規模の大会を催す際の受け入れ態勢も十分考慮すべきである。

### (3) ぎのわん車いすマラソン参加選手

沖縄県宜野湾市では毎年、車いすマラソンが開催されている(図 24、31)。本年度で 25 回目を迎え、沖縄有数の大会に育っている。

本大会に参加した県外選手の意見、感想等を伺った。概要を表 23 に示す。

宿泊地はすべてラグナガーデンホテル(宜野湾市)、うち 2 名は大会後の観光で石垣を訪れている。滞在日数は 2 日、石垣を訪れる方 2 名のみ 3 日だった。



図 24 ポスター



図 25 競技風景

図26 参加者の年代

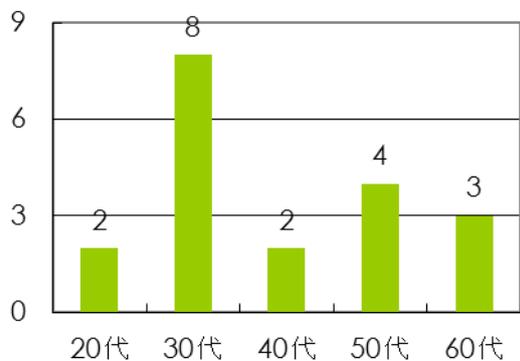
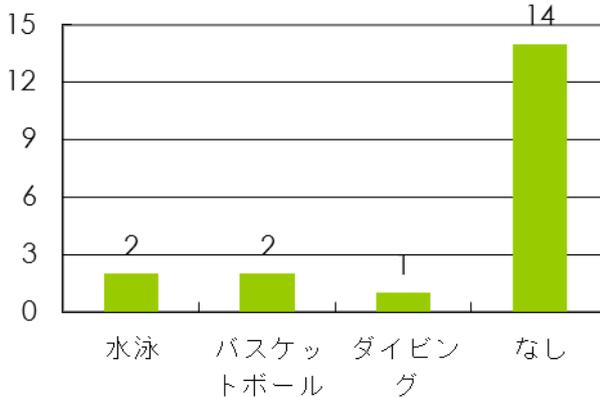


図27 陸上以外のスポーツ実施



参加者は広い年代に渡っている。陸上のみにとどまらず、水泳等、その他のスポーツを競技する方もいる。

図28 来沖回数

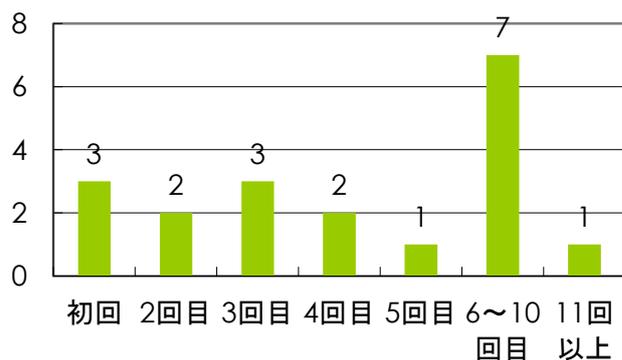
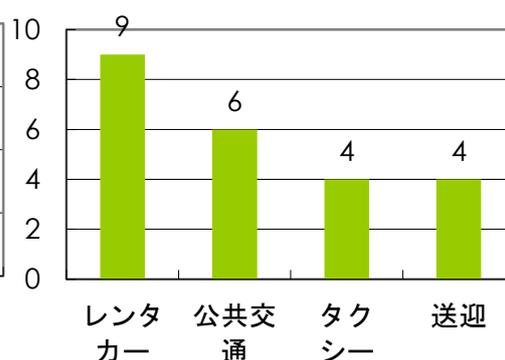
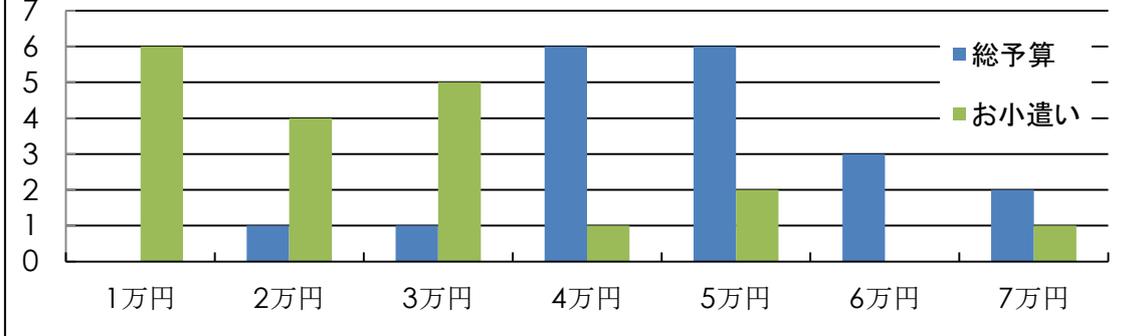


図29 沖縄県内の移動手段

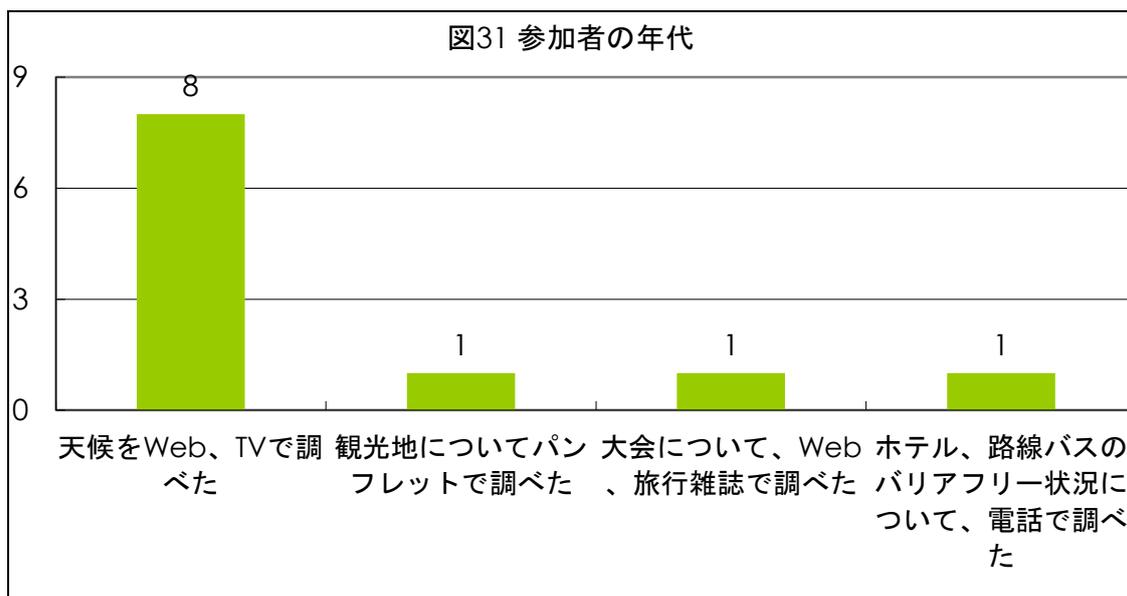


多くの方が、沖縄に複数回来訪している。回答の「レンタカー」はすべて福祉車両ではなかった。クルマ社会とされる沖縄県ではあるが、公共交通の利用も一定の割合に達している。

図30 参加者の予算



参加者により、総予算、お小遣い(個人的な用途)は幅が広い。



参加者が最も気にしている点は、天候であった。その他の点については、注意を引いたものは特に見られない。

表 23 自由意見

まち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際通りの土産屋、せつかく 1F に位置しているのにわずかな段差がある店舗が多い。それだけで入れなくなってしまうので残念。</li> <li>・全般的に過ごしやすかったが、まちの人は声をかけてくれない。</li> </ul>
ホテル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルの風呂のドアがスライド式ではなく内側に開くタイプだったので利用しにくかった。</li> <li>・宿泊施設のバリアフリー整備水準が高かった。</li> </ul>
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BFトイレの箇所は増えたが、1 か所あたりの設置数が少ないので混む。</li> </ul>
移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス会社に確認しなくても車いすで路線バスを利用できるようにしてほしい。</li> </ul>
全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体以降整備が進んだとは思いますが、大人数の障がい者には対応しきれていないように感じる</li> <li>・どこもよく整備されている。首里城の中にエレベーターがあるのは驚いた。</li> <li>・前回に来たときに比べると、よくなっている。</li> <li>・特に問題は感じない。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下調べはせず、現地に来てから確認したりしている</li> <li>・マイレージを使用。</li> </ul>

沖縄県内のバリアフリー整備については概ね評価を得ている。しかし、場面ごとに対応すべき課題がまだ残されていることがうかがえる結果となった。

## 5.スポーツ施設紹介ツール

本業務では、障がい者スポーツチームに対し、沖縄県内で合宿するように促すための案内冊子を制作した。

冊子は 2000 部制作の上、主に各種障がい者スポーツチーム等の配布を予定している。冊子の概要(構成)を表 24 に記す。

表 24 冊子のページネーション

導入部			
1	もくじ	24	今帰仁村総合運動公園
2-3	沖縄で合宿しよう!	25	くいなエコ・スポレク公園
4	沖縄合宿をお勧めする理由	26	久米島町総合運動公園
施設案内		27	宮古島市陸上競技場周辺
5	ページの見かた	28	石垣市総合体育館・石垣市中央運動公園・サッカーパークあかかんま
6	施設所在地図		
7	那覇市民体育館	サポート情報	
8-9	奥武山公園	29-31	那覇空港しょうがい者・こうれい者観光案内所
10-11	西崎運動公園	32	そらポート号・沖縄県バリアフリーマップ
12	浦添運動公園		
13	サン・アビリティーズうらそえ	33	福祉レンタカー
14	宜野湾海浜公園	34-35	那覇空港利用案内
15-17	沖縄市立総合運動場	36	宮古空港利用案内
18-19	沖縄県総合運動公園	37	石垣空港利用案内
20	読谷村体育施設	38-40	ホテルバリアフリー情報
21	恩納村赤間多目的運動場・赤間総合運動公園	41	柔道整復師リスト
		42	マッサージ師リスト
22	宜野座村総合運動公園	43	医療施設リスト
23	21 世紀の森体育館	その他	
		44	編集後記・奥付

## 6.まとめ

### 6.1 本事業の成果

#### (1) 県外における障がい者スポーツの現状

障がい者スポーツ団体の合宿は、春から秋の季節を中心に活発に行われており、各回の参加人数は十数人に上る。人口が多く交通の便も良い東京都やその周辺を目的地とするものが多いが、沖縄にも秋口から冬にかけて来訪がある。他地域にない沖縄の長所である気候の温暖さを、障がい者スポーツ団体が認識していることがうかがえた。

県外スポーツ施設では、障がい者の受け入れ態勢が進んでいる。

近年竣工したスタジアムでは、当初よりユニバーサルデザインの思想に基づく設計がなされ、競技者、観戦者ともにストレスをあまり感じずに施設を利用することができる。

障がい者向けのスポーツ施設では、さまざまなプログラムを設けて積極的に障がい者をスポーツの世界に誘うなど、努力を惜しんでいない。施設を作って終わり、ではなく、継続的な努力が、利用者のさらなる評価につながっていくことを実感した。

障がい者スポーツを管轄する協会へのヒアリングからは、今後の障がい者スポーツ(特にパラリンピックにおける外国トップチーム)の誘致に向けたアドバイスを多くいただいた。

近年航空路線の充実化が進む沖縄県の、今後の可能性を感じさせるヒアリングとなった。

#### (2) 沖縄県内の施設のバリアフリー状況

視察を行った多くの施設が新しく、バリアフリーにもよく配慮されていた。建設から時間のたった施設の中には、バリアフリー整備が遅れているものも見受けられたが、そのようなところでも、職員が適宜対応したり、改造を加えて最新の施設と遜色のない、障がい者の受け入れ態勢を整えているところも見られた。

県外から「癒し」「人の温かさ」を求めて沖縄を訪れる方も多い中、来沖者の期待を裏切らないようなホスピタリティが今後も求められているといえよう。

一方で、車いす用トイレが物置になっていたり、常時閉鎖されていていつでも利用できないなど、中にはバリアフリーに対する認識が乏しい例も見られた。障がい者スポーツの受け入れ以前の、倫理的な課題も得られた。

#### (3) 来沖する障がい者スポーツ選手

本事業で実施したモニター合宿参加者のほか、県内で開催された大会への参加者や合宿に来たトップアスリートにお話を伺った。沖縄のスポーツ大会や合宿に対し、アスリートの目線からの要望を多く得ることができた。

## 6.2 今後の課題、取り組み

本取り組みを通じて得られた指摘等について、以下に記す。

### (1) 一施設当たりのバリアフリールームの増備

現在、バリアフリールームを備える宿泊施設は増加している。しかし、宿泊施設の数が増加しても、一施設当たりのバリアフリールームの数は必ずしも多くなく、1 部屋ないし 2 部屋程度にとどまっている施設が多い。

障がい者スポーツの合宿を受け入れる際、車いすを利用する種目であれば、一時に多数の車いす利用者に対応する必要がある。「バリアフリールームのあるホテルを増やす」視点に加え、「一施設当たりのバリアフリールームを増やす」ことも重要である。

トップアスリートであれば、ある程度のバリアには対応可能との見方もありはするが、社会が成熟していけば複数人数の車いす利用者による観光需要も増加する可能性がある。急激な整備は難しくても、少なくとも施設ごとのバリアフリールームの数が容易にわかるような情報提供などが必要であると思われる。

(※当法人では2013年10月21日現在、沖縄県内のバリアフリールームを有する宿泊施設は101か所を把握している)

### (2) 氷やクーラーボックス等必需品(トレーニング用具含む)の手配、デリバリー

亜熱帯気候の沖縄では、季節を問わず暑い日が訪れる。運動中のアスリートにとって、水分補給や体温調節は重要な課題である。

また、県外から沖縄への移動手段は事実上飛行機に限られているが、飛行機に持ち込める荷物には制約がある。

これらの沖縄特有の制約を考慮すると、宿泊先のホテルでのクーラーボックス類の貸出、氷の提供や、練習施設への飲料等のデリバリーサービスを行いたい。

既に他国(熱帯地域)の日系ホテルで同種のサービスが導入されてもおり、誘客の島嶼間競争に対応するためにも、検討が望まれる。

### (3) 裾野の拡充

沖縄はスポーツコンベンションを推進し、近年はプロ野球のキャンプが多く訪れるようになった。身近で一流選手のプレーを見聞きできるようになったことが、沖縄県の高校野球が発展した理由の一因ともされる。

スポーツ施設のバリアフリー環境を整備し、多くの障がい者スポーツの一流アスリートが来註するようになれば、沖縄県内の障がい児・者の夢や希望を生むきっかけになるだろう。

折しも2013年、7年後のパラリンピックの東京開催が決まったが、選手層があまり厚くない障がい者スポーツの現状を鑑みると、今の小学生、中学生たちにはパラリンピック選手として活躍できる可能性も十分ある。

例えば、日本車いすテニス協会は毎年、子供向けのキャンプを開催している(図 32)。このような先行例を参考にし、沖縄県でも中長期的な視点に立ち、子供向けの障がい者スポーツ教室などが開催できれば望ましい。

## 車いすテニス・ジュニアキャンプ

### 開催要綱

<b>名称</b>	「車いすテニス・ジュニアキャンプ」
<b>目的</b>	この企画は、身体に障害のあるすべての子供及び家族がスポーツ(車いすテニス)に親しむ機会を提供し、障害のあるなしにかかわらず、すべての子供たちが一緒に楽しみ、交流を深め、仲間づくりを目的としています。
<b>主催</b>	熊本車いすテニスクラブ
<b>後援 (予定)</b>	日本車いすテニス協会、熊本県、熊本県障害者スポーツ・文化協会 NPO活動法人ジャパン・サン・インダストリーズ
<b>協力</b>	太陽の家 SPASH
<b>日時</b>	平成24年8月11日(土)10:30 ~12日(日)15:00
<b>会場</b>	8月11日(土) 別府・重慶センター テニスコート 12日(日) 別府・太陽の家 スポーツセンター
<b>宿泊先</b>	ホテル サンバリアアネックス <a href="http://www.hotelsunvalley.com/annex/">http://www.hotelsunvalley.com/annex/</a>
<b>参加費</b>	大人 10000円・子供 5000円 (交流会・テニスカンパ講習会込)・宿泊なしの方参加費 2000円 現地集合となります。
<b>内容</b>	テニス講習会/交流会 (地獄蒸し料理体験)
<b>募集人数・対象者</b>	子ども (4歳~高校生) 30名 ・ 保護者 10名
<b>参加条件</b>	障がいをもつ子供さんは、保護者の方と一緒にご参加ください。
<b>申込締切</b>	<u>平成24年7月29日(日)</u>
<b>申込方法</b>	FAX・E-mail・電話で下記へ連絡を下さい 〒864-0011 熊本県荒尾市下井手 1546 熊本車いすテニスクラブ 代表：塚本直子 FAX ・ 0968-66-2775 携帯：080-4275-2775 Mail :santa777@proof.ocn.ne.jp

**当日は、運動しやすい服装で、体育館用のシューズをご持参下さい。  
ラケット・ボール・ドリンクは準備致します。**

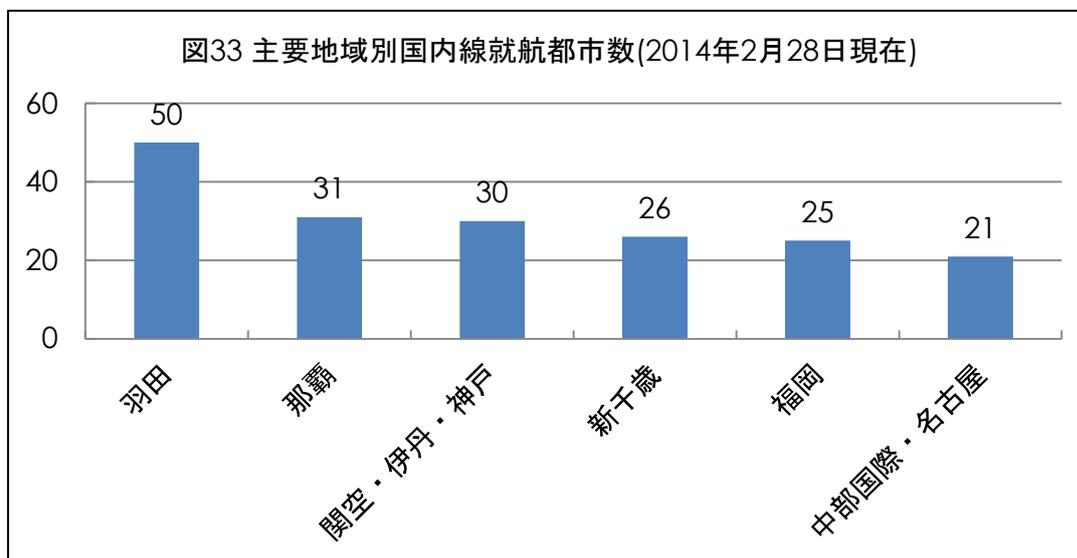


<平成24年度子どもゆめ基金助成活動>

図 32 車いすテニス・ジュニアキャンプ開催要綱

#### (4) 就航する航空路線の多さ、アクセス情報

1章3節に、沖縄(那覇空港)は国際線の就航便数が地方都市にしては多い旨を記したが、国内線の就航都市数もきわめて多い(図33)。距離は遠いものの、飛行機に乗りさえすれば国内のほとんどの地域から2~3時間で着く点は、より強くアピールすべきであると思われる。



#### (5) スムーズな航空アクセスの確保

車いすアスリートのヒアリングの中で、航空会社によって、競技用車いすの積み込みや積載可能台数等について大きな違いがあるとの指摘があった。

事実上飛行機でしか来訪できない沖縄は、飛行機のトラブルは命取りとなる。

車いすを使う障がい者がよりスムーズに空を旅することができるように、車いすや福祉器具類の取り扱いについて、異なる航空会社間でも共通化するなどの対応が望ましい。

#### (6) 街なかのバリアフリー整備拡充

沖縄県では、本年度より、街中を走る路線バスにノンステップバスが大量に投入されるようになった(図34)。障がい者、特に車いす利用者が自由に街を出歩くことのできる環境が少しずつ整えられてきているが、多くの場合、バス1台につき乗車できる車いす利用者は2台にとどまり、大人数の車いす利用者での乗車はできない。



図34 車いす2台固定可能

一方、当法人では、小型ノンステップバス「そらポート号」(図35)を運用している。

「そらぼーと号」は、車いす利用者でも気軽に複数人数で移動ができる小型ノンステップバスである。年間を通じ、さまざまな利用目的に対して貸し出しを行っている(表25)。

少人数のスポーツ合宿は既存の路線バスを、大人数の合宿は「そらポート号」を活用するな

ど、ニーズに合った適切な移動手段を提供できることが重要である。

「そらぼーと号」の利用状況を図 36 に示す。



図 35 そらポート号

表 25 「そらぼーと号」借用者の例

借用団体	借用目的	輸送人数
障がい者就労支援センター	企業視察、企業巡り	19名
障がい者地域活動支援センター	ホテル送迎	20名
障がい者福祉協会	会員親睦交流会	15名
障がい者スポーツ協会	スポーツチームキャンプ	10名
障がい者スポーツ大会実行委員会	スポーツ大会参加選手送迎	26名
海浜公園	障がい者スポーツ参加者の送迎	10名
社会福祉協議会	障がい者の野外活動	10名
特別支援学校	買い物見学、学習会	12名

一方、本年度事業のモニター来沖者からは、街なかの道が歩きづらいとの意見が複数寄せられている。障がい者の動線に合わせ、まちでの様々なシーンからバリアを除去していくため取り組みが、引き続き求められていると言える。



### (7) 専門家(鍼灸師など)による体のケア

県外では、大規模なスポーツ大会が開催される際、鍼灸師等がボランティアで参加選手のケアにあたることもある。スポーツ大会は、それ自体は単発のイベントではあるが、県外客が沖縄に来訪するきっかけとして果たす役割は大きい。そのような機会に、沖縄の印象を好ましいものとするためにも、可能な限りの「おもてなし」でアスリートに対応できる体制をとりたい。

また、沖縄県内には、視覚障がいを持ったハリ・灸・あんまマッサージ師が一定数おられる。障がい者が施術を行うことで、受け入れ側の沖縄県内の障がい者の社会参加機会の創出にもつなげることができる。



8月22日(日)、毎年恒例となっている障がい者スポーツのボランティア治療に行ってきました。

今回の会場は、田村市陸上競技場です。

小学校の田村富士ロードレース大会以来の田村市陸上競技場だったので新しい陸上競技場にびっくりしました。

連日猛暑が続いておりますが、この日もとても暑い一日でした。



図 37 福島県本宮市「心和堂はりきゅう院」Web サイトより

### (8) まとめ

スポーツの合宿においては、来沖交通機関、宿泊施設、県内移動手段、練習施設など様々な主体が関与する。アスリートがそれらの手配や調整にかかわっていれば練習に割く時間も減ってしまい、好ましいことではない。マネージャーを置ける場合でも、県外と風土も異なる土地柄ゆえ、必ずしもスムーズに事が進むとは限らない。アスリートの沖縄滞在を全面的にサポートできそうな組織が望まれていたところだが、折しも本年度、「スポーツコミッション沖縄」の2015年度発足が決定した。

スポーツコミッション沖縄は、アスリートの来沖・沖縄滞在にかかわるすべての案件をワンストップ的に対応可能な組織とすることが発表されている。本組織の発足に伴い、スポーツ選手たちの来沖のハードルが大幅に下がることが予想されるが、一方で障がい者スポーツに関しては、受け入れに際し専門の知識も必要であり、個別のケアが必要である。

県が是とするスポーツコンベンションの流れに乗り、障がい者スポーツの合宿についても、今まで以上に敷居を低くし、より多くの障がい者アスリートに沖縄県を訪れていただくことができるように取り組んでいくことが重要である。

平成 25 年度 誰にでもやさしい観光地づくり形成事業  
観光バリアフリー推進モデル事業 報告書

**発行 : NPO法人バリアフリーネットワーク会議**

904-0011 沖縄県沖縄市照屋 1-14-14(沖縄市銀天街)

TEL 098-929-1140 FAX 098-929-1143

<http://barifuri-okinawa.org/bfn/>